

2019年3月19日

2019年度 事業計画書

「誠実で信頼される人に」
Become a Sincere and Reliable Person



学校法人 享栄学園

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部

目 次 *Contents* 2019年度

I 中期事業計画概要（2016年度～2020年度）	1
II 予算編成方針（2018年9月25日開催理事会承認）	2
III 事業計画書	
1. 法人	4
2. 鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部	6
3. 中期事業計画振り返りシート	11
IV 収支予算の概要	23

I 中期事業計画概要（2016年度～2020年度）

1. 中期計画の策定にあたって

高等教育機関をめぐる環境は、近年の少子化に伴う就学人口の急激な減少や大学・学部の新増設等による大学間の競争激化などにより、大きな変化と厳しい状況を迎えています。

こうした環境の中で、享栄学園においても、小規模な法人としての特性を活かし、本学園の強み弱みをより深く分析し、経営および教学の課題を掘り下げ、迅速な対応により改革を推進することが急務となります。

学校法人は、その責務として永続的な学校運営と社会に有意な人材の育成が求められており、短期的な視点からではなく、中・長期的展望に立って取り組んでいかなければならず、また、本学園を選ぶ学生に対し、十分満足のいく教育内容、教育環境を提供していかなければなりません。

これからは、教職員一人一人が現状に甘んじることなく、常に改革の意識を持ち、理事会を含め学園一体となって改革に取り組み実現していくことが重要となります。

ついては、さらなる発展を遂げるために、「学校法人享栄学園 中期計画（2016年度～2020年度）」を策定し、これを着実に実行していくことで、社会から必要とされる教育機関としての地位を確固たるものとし、地域社会に一層の貢献を果たしていきます。

2. ミッション

「オール鈴鹿大学」として、鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部ともに、全学一体となって教学改革、経営改革に取り組み、学生一人一人が夢をかなえることができるよう支援し、自己実現度100%以上の達成を可能とする大学を目指す。

建学の精神「誠実で信頼される人に」のもと、出会いと学びを与え、学びの達成感を通して社会に貢献し続けることのできる「知（地）の拠点」を目指す。

3. 教育目標

教育基本法及び学校教育法にのっとり、建学の精神に基づき、広く知識を授け、専門の深い学芸を教授研究し、豊かな人間性を育成することで、高度で専門的な職業的教育を目的とし、国際社会及び地域社会の発展と向上に寄与し得る人材育成を使命とする。

4. 中期方針（2016年～2020年）

〔1〕 経営力

- ・財政基盤の確立と財務体質の強化
- ・ガバナンスおよび内部統制の強化
- ・施設設備の充実

〔2〕 募集力

- ・社会的責務としての定員充足達成とその継続
- ・県内高校生（若年層）への広報強化
- ・年齢や国籍を問わない多様性のある募集への移行
- ・自ら課題を発見し、問題解決し、世界に発信することのできる学生の募集
- ・三重県国体に向けた運動クラブの募集強化

〔3〕 教育力

- ・他校にない特色（魅力品質）づくり
- ・在学生の満足度向上
- ・高大接続による単位認定制度の確立
- ・研究に裏付けられた専門教育の提供
- ・職場で役立つ資格取得の支援
- ・社会の変化に対応した学部・学科改組

〔4〕 就職力

- ・就職率100%の達成とその継続
- ・人口減少対策としての県内での就職強化
- ・1年生から全員参加するインターシップや実習の実施
- ・地元企業や商工会議所との密接な連携
- ・起業家を育てるキャリア教育の充実

Ⅱ 予算編成方針 （2018年9月25日開催理事会承認）

本学園は、建学の精神「誠実で信頼される人に」のもと、出会いと学びを与え、学びの達成感を通じて社会に貢献し続けることのできる「知（地）の拠点」を目指し、全学的な取り組みとなる、つなぐプロジェクトを立ち上げるなど、さまざまな改革に取り組んでいます。

高等教育機関を取り巻く環境は、本格的な人口減少社会の到来により、主たる進学者である18歳人口も大きく減少します。高等教育機関が求められる役割を真に果たすことができるよう、これまでの改革の成果と課題について検証するとともに、状況の変化も踏まえて、将来を見据えた教育・研究改革の推進および財政基盤の確立が重要です。

2017年度に、こども教育学部を新設、2019年度からは、国際人間科学部を改組転換し、「グローバル化する地域の課題をビジネスや異文化理解により解決できる人材の養成」を目的とした国際地域学部を設置します。

しかしながら、本学園は、法人分離後の2014年度以降、文部科学省で定めた新たな経営指導強化指標である、事業活動収支計算書の経常収支差額において、2015年度は△5,313千円、2016年度は△27,159千円、2017年度は△79,746千円と、すでに3年連続赤字となっており、是が非でも回復し、厳しい環境を生き残っていかなければなりません。

このような財政状況下においても、限られた収入の中で、教学の充実に必要な事業予算を最優先に確保し、最大限の創意工夫による教学改革を行うため、理事長、学長が先頭に立ち、教職員一人一人が常に改革の意識を持ち、教学と法人が一体となって取り組むことで、可能となると確信しております。

また、言うまでもなく、私立大学経営の中心は教育にあり、大学そのものの存在意義の根幹を成すものとなります。入試改革など大きく変化していく状況の中、個々の利害を超えて、学生を中心とした教育が求められています。本学園においても、学長のリーダーシップ、教職員の熱意、教職協働により、学生が満足していることが実感できる体制の強化が急務となります。

2019年度の予算編成にあたっては、2016年度からの5カ年による中期事業計画に基づき、次のとおり予算編成上の重点項目に沿って、さらなる教育研究活動の活性化と財務体質の改善に向けた予算配分を行います。

1. 予算編成上の重点項目

(1) 教学の充実

2学部1学科体制による連携を強化するとともに、学部・学科においては、教育の魅力を高め、特色ある教育・研究を実践する。

さらに、学生に対する教育の質を保証するため、教育力を高める。

(2) 入学定員の確保

収入の根幹となる学生生徒納付金収入の確保は、最重要課題となる。

入学者目標人数を必達する。

＜2019年度学部等別入学者目標人数＞

学 部	目 標	(入学定員)
国際地域学部	154名	(120名)
こども教育学部	64名	(50名)
大学院	10名	(10名)
短期大学部	100名	(90名)

(3) 外部資金および補助金等の獲得

補助要件を精査し、補助金の採択率向上を高め、積極的な外部資金の獲得する。

(4) 事務職員の資質能力向上

運営を担う事務職員の資質能力の向上を図り、スペシャリスト化を推進する。

(5) 財政基盤の確立

学園の永続的な運営に必要な内部留保金を確保し、安定した財政基盤を確立するとともに、経営数値目標を必達する。

2. 経営数値目標

実態に則し、実効性の高いものとして次のとおり経営数値目標を設定し、予算編成の基礎とする。

	2019年度 目標値 (案)	2017年度 実績値	2016年度 実績値	※参考	
				大学法人 全国平均	評価
① 事業活動収支差額比率	0%以上	△9.6%	△0.6%	4.9%	△
② 経常収支差額比率	0%以上	△9.6%	△2.8%	4.1%	△
③ 教育活動収支差額比率	0%以上	△9.6%	△3.0%	2.7%	△
④ 人件費比率	58%未満	62.9%	55.4%	53.6%	▼
⑤ 教育研究経費比率	30%以上	37.7%	38.6%	33.0%	△
⑥ 管理経費比率	5%未満	8.3%	8.0%	9.0%	▼
⑦ 人件費依存率	78%未満	87.5%	83.6%	72.8%	▼
⑧ 基本金組入後収支比率	100%未満	111.6%	127.2%	107.8%	▼

※参考「今日の私学財政」2017年度版（2016年度決算値）より抜粋

以 上

Ⅲ 事業計画書

1. 法人

〔Ⅰ〕 経営力

1. 財政基盤の確立と財務体質の強化

(1) 入学定員の確保および定員充足率の向上

<国際地域学部>

国際地域学部の2019年度入学生は、入学定員充足率100%以上を達成することができた。しかし、入学者の大半が留学生である。2018年度入学生も留学生が多く、正課は専門用語が通じず、授業が成立しない状況であった。そのため、留学生に特化した対応が急務となる。そこで、2019年度から留学生教育支援センターを設置し、留学生の教育や生活等の支援を強化し、専門教育を受けられる体制を整備することとし、運用を開始することとした。また、2020年度入学生募集時には、募集要項に日本語力の水準等を明記することで、質の高い留学生確保を目指し、専門教育の知識を深めることで、国際地域学部の評価を高めていくこととする。

さらに、日本語学校からの入学生は、ネパール、ベトナムが中心であるが、中国、韓国、台湾等の高等学校と協定を締結し、積極的に、水準の高い留学生を確保していく。

同時に、現在の奨学金制度は、留学生＝奨学生となっており、留学生が増加すると奨学金も増加するという構造となっている。また、特別補助金の対象とするためには、経済的に修学困難なものを対象としていることが条件であることも踏まえ、留学生＝奨学生ではなく、留学生でも奨学金を支給するための理由や条件を明確にし、奨学生としての価値を高めていく。

<こども教育学部>

こども教育学部は、徐々にではあるが入学生が増加傾向にある。しかし、入学定員を大きく下回っていることに変わりがない。対策として、まずは競合校と同水準となるよう、小学校課程の免許取得を行えるように対応を行う。また、2019年度が最終学年となる専攻科で、現役合格者を出すことで、こども教育学部の評価につなげていく。

<短期大学部>

短期大学部の2019年度入学生は、予想を下回る結果となった。検証の結果、競合校が現れたこと、募集活動が大学に重点を置きすぎたため、短期大学部の印象が薄れたことなどがあげられたことから、2020年度入学生募集は、短期大学部用のパンフレットを作成し、短期大学部の魅力を前面に出す内容での活動を行っていくこととする。

(2) 外部資金および補助金等獲得体制の強化

① 改革総合支援事業採択件数

2018年度は、大学3タイプ、短期大学部2タイプ申請し、すべて不選定となった。

設問内容がかなり変化し、水準も高くなってきている。補助金獲得プロジェクトチームで対応してきたが、振り返りや検証が実施できておらず、制度化に至っていないものも多数出てきている。

2019年度は、全学的に取り組みを行い、文部科学省の2019年度概算要求私学助成関係

の説明資料を基に、検討を重ねて取り組みを行っていく。

② 経営強化集中支援事業採択件数

学校法人運営調査委員会による調査結果を受け、経営改善計画の作成を求められている学校法人は、対象外となる。経営の改善が急務となる。

③ 科学研究費補助金採択件数

採択率を上げるため、附属図書館を主管として計画を立案し、FD・SD研修会を利用した採択率向上に向けた研修会を実施する。

④ 特別補助金

6月の補助金説明会直後に、FD・SD研修会で全学へ情報の共有を行い、補助金に対する認識を統一したうえで、取り組みを行っていく。

(3) 寄付金事業の体制整備

2019年度は、大学が25周年を迎える。2018年度から寄付を募ってはいるが、目標金額には達していない状況である。また、大学25周年を機に、大学の同窓会と関わりを密に行い、良好な関係を継続して築いていく。

また、2018年度から、公開講座や授業公開の受講料の寄付扱いとする制度については、引き続き周知を行っていく。

(4) 内部留保金の確保

2019年度の最重要課題は、こども教育学部の入学者確保である。それに加え、支出については、予算のヒアリングを実施し、新規事業計画の妥当性の検証を行ったうえ、配分を行っていく。予算の執行に関しては、効果を検証し、費用対効果を意識しながら事業を行う体制とする。

2. ガバナンス及び内部統制の強化

現在、さまざまな課題に即対応を行っていくため、経営側と教学側が一堂に会せる場として、経営教学評議会を設置する。併せて、規程についても分離を手つかずとなっていたため、2019年度施行に向けて見直しを行った。

2019年度は、組織整備および規程の見直しを行ったことで、より規程どおりの運用を行うよう、規程に関する研修会を実施する。また、各委員会および会議規程においては、規程の改廃をその規程の関係責任者が上申し行うこととすることで、規程の内容を意識しながら運用し、実態と合わない場合は、検討を行ったうえ、改訂していく体制とする。

3. 施設設備の充実

2019年度は、大学25周年を迎える。施設についても25年経過しており、老朽化による不具合が、至る所で発生している。メンテナンスが定期的には実施されていなかったため、発生後の対応に追われ、部品も製造停止など、修繕での対応も出来なくなっている。潤沢な資金源が無い場合、優先順位を決め、改修工事を実施していく。2019年度は、実際に停止しているC棟の空調改修と消防点検時に指摘された消防設備の改修工事を行う計画をしている。

<2019年度以降の環境整備実施予定項目>

単位：円

項 目	予算額（概算）
① 空調設備 C棟 改修工事	28,000,000
② 消防設備点検指摘事項修繕工事	3,000,000
③ グラウンド整備工事	2,000,000
④ 空調設備（全館）改修工事	130,000,000
⑤ エレベーターリニューアル工事	13,250,000
⑥ 火災報知機防火盤更新	7,000,000
⑦ 防水シート修繕工事	18,000,000
⑧ 講義室LED化	6,000,000
⑨ 事務局・体育館LED化	1,500,000

※2019年度実施予定

※2019年度実施予定

2. 鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部

〔Ⅱ〕 募集力

1. 社会的責務としての定員充足達成とその継続

①中国・韓国・台湾の高校等との高大接続協定締結の実施

国際化ビジョンに基づき、グローバル化を目指している。これまでの留学生獲得に加え、さらに、優秀な留学生の出願を増やす。

②日本人学生の獲得

TSUNAGUプロジェクト等を媒介として、本学の取り組みや教学の中身を発信する。また、2018年度から、県内の商業高校にて、駅プロジェクトの紹介を行っている。

③競合する他大学にない強み（売れる商品）作り

売れる商品＝「魅力ある授業内容」、「この先生になら生徒を預けたい」と思ってもらえる教員の資質向上を目指すための改善を依頼する。

④オープンキャンパスの改善

2019年度も、学生広報部SUZUKA9（スズカナイン）の活動を継続する。

TSUNAGUプロジェクト型入試のTSUNAGU塾を開設する。

⑤高校側進路指導部担当教諭との信頼関係の構築

生徒を送ってもらえるような会話を実施する。

⑥大学案内の短期大学部強化

短期大学部の印象が薄れたため、短期大学部に特化したリーフレットを作成する。

⑦目標値を、入学定員数の1.29倍に置き、活動を行う。

2. 県内高校生（若年層）への広報強化

①資料請求件数の拡大

受験生応援サイトを充実するため、学生の大学生活の様子が分かるページ構成とする。

ホームページを充実するため、職員がホームページのチェックを行い、頻度を増やす。を行う。こども教育学部資料請求数150件目指すため、リクルート進学事典先輩企画ページへ掲載を行う。

②SNS等による情報発信

イベント等主管する部署へ、掲示板への情報アップを促す。また、ニュースリリース

件数を増やすため、情報管理者を決め、承認を得る仕組みへ変更する。

T S U N A G Uプロジェクトの情報発信を定例化するため、月1回定期的に実施する。

S U Z U K A 9運営のSNSを充実するため、S U Z U K A 9への声掛け（働き掛け）を継続的に実施する。

F a c e b o o kは、教員の担当を決め、定期的にアップが来ている。今後も継続していく。

③高校訪問及びガイダンスの強化

高校訪問は、教職員が情報共有しながら効率的に実施し、積極的に訪問する。教学の中身の紹介は、積極的に教員が出向くようにする。高校訪問時の新しい情報提供用の広報物を制作する。（T S U N A G Uプロジェクト、学部情報、イベント情報など）

3. 年齢や国籍を問わない多様性のある募集への移行

①留学生を対象とする募集活動の強化

留学生の出願者は、口コミが多く、今後も継続が予測される。在学中の留学生の満足度を高めることが口コミに繋がるため、優先事項となる。

留学生は、国内の日本語学校からの進学者が多い状況であるため、海外からの留学生確保も必要となる。諸外国の海外進学率は、まだまだ増加傾向にある。海外の高校や日本語学校からの出願者を増やすため、海外の学校との協定等締結を目指す。

②シニア・社会人学生の入学者確保

奨学金による入学者の確保から、授業環境の充実による入学者確保へ移行する。

授業環境の充実として、科目数増、始業時刻の変更、仕事での実践を単位化、初年次セミナー対象外、役割付与など。

イメージ戦略として、「シニアの鈴大」というイメージを定着させる。

近隣地域、郡山公民館や亀山市中央公民館との連携を強化し、シニア層への広報を積極的に実施する。

4. 自ら課題を発見し、問題解決し、世界に発信することのできる学生の募集

<駅プロジェクト>

- ①公共交通活性化事業（伊勢鉄道、C - B U Sとの連携）
- ②道の駅活性化事業（紀宝町道の駅ウミガメ公園、御浜町道の駅七里御浜との連携）
- ③ネコギギプロジェクト（M i e M uショップでの商品開発）
- ④インバウンド振興ホームページプロジェクト（ホームページの開設）
- ⑤鈴鹿抹茶ブランド化プロジェクト（A G F 鈴鹿や太門通商との連携）
- ⑥L I X L 三重支店トイレプロジェクト（世界のトイレについて考える）
- ⑦菰野町観光動画プロモーションプロジェクト（動画制作）

<つなぐ育ちプロジェクト>

- ①子育て支援ずたん広場（毎週月曜日に子育て支援）
- ②すずかだいがくこどもひろば（学生たちによる子ども向けイベント）
- ③ジュニアアスリート栄養教育（スポーツ栄養サポート研究会GrowUpによる栄養教育）
- ④性教育出前講座（命の大切さを伝えるための出前講座）
- ⑤いのちの教育人形劇（交通事故で子を亡くした母による人形劇上演）
- ⑥つなぐ育ち事例勉強会（「精神・発達障害者雇用を考える」セミナー）
- ⑦亀山市教育委員会との共催（「つなぐ育ち研修会」年2回実施）

5. 三重県国体に向けた運動クラブの募集強化

今年度の硬式野球部の募集については、動き出しが遅かったため、11名の学生しか確保できなかったことを受け、来年度は早くから、募集活動ができるような体制を強化する。

女子バレー部は9名の学生を確保。高校との関係性を引続き強化していく。

強化クラブの学生の満足度は高くないため、練習環境の整備や学生への支援体制を整える必要がある。

強化クラブ規程で、強化クラブ会議を開催することができるので、定期的に強化クラブ会議を開催し、課題の共有や問題解決などを迅速に図っていく。

【Ⅲ】 教育力

1. 他校にない特色（魅力品質）づくり

①英語教育、日本語教育に特化した事業の推進

国際人間科学部、国際地域学部の英語教育は、1年次にオーラルコミュニケーションを15名程度、習熟度別クラスにて開講している。（週5日、ネイティブ講師による講義4回、日本人講師による講義1回）2・3年次は、90分を週2回、習熟度別クラスにて開講している。目標は、TOEIC受験者を増やす。

日本語教育は、20名以下で習熟度別クラスを開講している。作文、文法、講読各2単位としている。日本語能力の低い学生には、さらに2単位分の補講を開講している。目標は、日本語能力試験1・2級合格者を増やすこと。

②国際交流事業の推進

4月に、COC（地域連携）・国際交流センターから、年間計画の立案および情報発信を実施する、グローバルスタディーとして県内教育期間、団体等へ告知を行い、年間50件を目指す。

③ボランティア活動への参加の推進

現在、ボランティア募集の告知と参加学生の把握は、総務課が行っているが、積極的に教務・学生支援課が係わり、連携を図りながらボランティア学生を増やす。ホームページへの情報発信についても、積極的に実施する。

2. 在学生の満足度向上

①学生満足度調査の実施

毎年7月までに全学生対象の調査を実施し、8月末までに結果の集計および報告を行う。学生の満足度向上に役立て、教学内容の充実・教育環境・生活環境を整えていく。

また、3月には卒業予定者対象の調査、集計分析を行う。

②授業評価アンケートの実施

FD・SD部会と連携を図り、授業科目の開講時期を把握したうえで、全ての科目についてアンケートを実施し、教員表彰へ繋げて行く。アンケートの実施は、ポータルサイトを利用し、経費の削減にも努める。

③懇談会の開催

理事長、学長と学生との懇談会を、前期と後期に複数回開催し、意見交換会を行う。短期大学部については、年4回個人面接を行い、ニーズの聞き取りを実施する。

3. 高大接続による単位認定制度の確立

① 高大接続協定校の拡充

2019年12月末までに、各学部、学科と連携し、魅力ある教学プログラムを作成する。
本学の魅力を発信し、協定校の拡充に繋げる。

② 高大接続協定校との事業推進

鈴鹿高等学校との高大接続プログラムを、年1回実施しており、2019年度も継続していく。また、久居農林高等学校とも栄養学を含む調理実習を年1回実施している。

4. 研究に裏付けられた専門教育の提供

科研費（科学研究費補助金）は競争的資金であり、学術的な観点や、新産業創出などの観点により評価され、優れた研究課題に優先的に資金が配分される。そのため、本学においても、科研費獲得を推奨している。申請については、個人研究費配分の条件としているため、ほぼ全員が申請を行っているが、採択率は低い。そのため、FD・SD部会と連携し、年6回研修会を実施し、科研費採択者および学外講師からのアドバイスを受け、採択率向上を目指す。

大学院においては、年3回学内研究会を実施し、研究力向上を目指す。

短期大学部においては、年1回健康教育を柱とした研究を実施する。

5. 職場で役立つ資格取得の支援

本科において取得する資格について、各学部、学科との連携、情報共有を行い、支援を行う。12月までには、次年度に向けた指導の具体策の立案を行う。また、各学部、学科にて、個人面談を行い、資格取得についての聞き取りを行い、本科以外で取得できる資格の内容を充実させ、支援を行っていく。

6. 社会の変化に対応した学部・学科改組

こども教育学部は、完成年度後の2021年度を目指し、小学校教員養成課程を開設する。
基礎教育科目の実務教育科目について、全学での統一した指導体制を4月から開始する。
基礎教育科目について、国際地域学部とこども教育学部、短期大学部の合同での開講を実施する。

短期大学部は、2020年度改組に向けて、改組計画を立案する。

公開講座、授業校公開、履修証明プログラムなどを提供し、地域のニーズをつかむ。

[IV] 就職力

1. 就職率100%の達成とその継続

① 留学就職率向上に向けての取り組み

留学生採用予定の企業情報が取得出来れば、担当者から企業に詳しい求人内容を確認し、学生への情報提供を行う。

求人情報を留学生メールボックスに投函し、学生に周知する。

個別指導として、担当者より未内定学生に電話でも連絡を行い、挑戦を勧める。

学内での説明会が可能であれば企業に依頼し、学内企業説明会開催に向け企業と打合せを行う。

② 一般学生就職率向上に向けての取り組み

未内定学生については個別面談を重ね、出来る限り本人の希望に添えるような業種・職種への就職が出来るまで支援を続ける。

学内求人検索ナビ(J ネット)を活用し具体的に企業検索を行い、エントリーを行なうところまで指導する。内定獲得まで個別指導を継続して行う。

③就職支援プログラムのSUZUKA - TRY PROGRAMの推進を、全学をあげて取り組みを行う。

2. 人口減少対策としての県内での就職強化

①キャリアデザイン受講率の向上

3年次キャリアデザイン授業の受講案内を、2年次の初年次セミナーⅡで行い、受講を勧める。キャリアデザインの必要性を十分説明するための工夫をおこなう。

2年次担当教員と連携をとり、学生へ受講を勧める。

②留学生の入学者が増えていることもあり、2019年度は授業構成内容を検討する。

3. 1年生から全員参加するインターンシップや実習の実施

短期大学部は、県内就職率94%がほぼ限度であると考えるので、これ以上の上乘せは難しい。ただし、資格を活かした栄養士・保育士・幼稚園教諭等への就職サポートを強化していく。教学的な問題でもあり、授業や実習を通して職業の魅力を伝え卒業後の進路選択へつなげる。担当教員とも進路状況の情報を共有し、打合せを行う。

就職対象となる関係先と平素から良好な関係を構築するため、教職員による定期的な訪問を行う。

大学は、留学生が多くなっていることもあり、県内での就職率を向上するには、更なる企業開拓を行う。ハローワーク等の関係機関と情報交換を密に行うため、定期的に情報交換を行う。

4. 地元企業や商工会議所との密接な連携

大学でのインターンシップ推進について、学生時代に力を入れて取り組んだこととして、インターンシップを取り上げる学生が多くいることをふまえ、今後はキャリアガイダンス受講者だけでなく、広く案内をする。3年次ゼミ担当教員とも連携を行い、周知を行う。

長期で参加が難しい学生については、情報社主催の短期インターンシップへの参加を勧める。インターンシップ研修先開拓を行うため、関係機関との情報交換に力を入れる。

短期大学部のインターンシップ推進について、キャリアデザインの授業において、食物栄養学専攻の学生を対象に案内し、申込を行いマッチング作業を行う。マッチング後は、教員へ報告し、連携して研修先への訪問も行う。

5. 起業家を育てるキャリア教育の充実

担当課員による大学・短大内定先へのお礼訪問を3月中に行い、次年度の情報収集も行う。また、県下で開催される合同企業説明会に担当者も参加し、会場での学生指導を行うと共に、企業採用担当者と面談および情報交換を行い、学生の内定獲得に寄与する。

2019年度から、こども教育学部の学生が就職の準備活動を始めるため、就職先として紹介できる関係先のリストアップ等を学部関係者と連携をとり、2019年3月中に行う。

以 上

3. 中期事業計画振り返りシート

I 経営力	実施項目	1. 財政基盤の確立と財務体質の強化	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 入学定員の確保および定員充足率の向上	担当部署	事務局
		改定日	作成日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載		A (課題、改善策)																																																																																																																																																																																																																																																							
結果から見えてくることは？ ① 入学定員充足率 - 国際地域学部は、入学定員充足率100%以上達成。しかし、ほとんどが留学生。 ※改組転換により平成31年度から国際地域学部を設置。入学定員20名増（100名→120名）。 - こども教育学部は、徐々に増えつつあるが、まだまだ定員には満たない。 - 平成31年度から入学定員を30名減（80名→50名）。 - 短期大学部は、苦戦。特にこども学専攻。 - 大学院は、 - 専攻科は、平成31年4月から学生募集停止。 ② 収容定員充足率 - 国際人間科学部は、回復傾向にある。100%達成が目前である。 - こども教育学部は、完成年度を迎えていないが、収容定員の半数以下。危機的状況。 - 短期大学部は、年々悪化にある。 - 大学院は、 - 専攻科は、平成31年度2年生のみ。平成31年度生が卒業すると廃止となる。		課題 (何が問題?) ⇒ 改善策 (どうしたらいい?) <国際人間科学部> - 留学生が多く、一般学生が少ない。 - H30：留学生229名・一般184名 - 経済的困難（未納者）での除籍者多数。 - H29：除籍者数16名 - 留学生の日本語力が低い。授業が成立しない。 <こども教育学部> - 入学者数が低迷。 - 他大学同分野との違いが不明確（魅力、特色） <短期大学部> - A O入試入学者数が減少傾向。 - こども学が特に低迷。競合校の影響大。 改善策 (どうしたらいい?) - 留学生＝奨学生。実収入は一般学生の7割分。 - 一般通常納入金 1,130,000円/1年次 - 外国人留学生特典 762,000円/1年次 - 差額 △368,000円/1年次 - 経済的困難者へ資金が回る奨学金制度が必要。 - 留学生の日本語力強化体制を整備する。 - 小学校免許を取得できるようにする。 - 専攻科最終学年での対応を、こども教育学部の魅力としてつなげていく。 - パンフレットを大学と別にする。																																																																																																																																																																																																																																																							
D (行動、結果)		P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																																																																																																																																																																							
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> <th colspan="3">平成31年度</th> <th colspan="3">留学生数</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 入学定員充足率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際地域学部</td> <td>100名</td> <td>115名</td> <td>115%</td> <td>100名</td> <td>129名</td> <td>129%</td> <td>120名</td> <td>154名</td> <td>128%</td> <td>68名</td> <td>89名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども教育学部</td> <td>80名</td> <td>20名</td> <td>25%</td> <td>80名</td> <td>24名</td> <td>30%</td> <td>50名</td> <td>30名</td> <td>60%</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>10名</td> <td>11名</td> <td>110%</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td>100%</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td></td> <td>8名</td> <td>7名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>90名</td> <td>79名</td> <td>88%</td> <td>90名</td> <td>84名</td> <td>93%</td> <td>90名</td> <td></td> <td></td> <td>0名</td> <td>2名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>10名</td> <td>4名</td> <td>40%</td> <td>10名</td> <td>11名</td> <td>110%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 収容定員充足率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際地域学部</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>120名</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際人間科学部</td> <td>470名</td> <td>387名</td> <td>82%</td> <td>420名</td> <td>413名</td> <td>98%</td> <td>320名</td> <td></td> <td></td> <td>188名</td> <td>229名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども教育学部</td> <td>80名</td> <td>20名</td> <td>25%</td> <td>160名</td> <td>42名</td> <td>26%</td> <td>220名</td> <td></td> <td></td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>20名</td> <td>23名</td> <td>115%</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>100%</td> <td>20名</td> <td></td> <td></td> <td>16名</td> <td>13名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>260名</td> <td>218名</td> <td>84%</td> <td>180名</td> <td>162名</td> <td>90%</td> <td>180名</td> <td></td> <td></td> <td>0名</td> <td>2名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>20名</td> <td>10名</td> <td>50%</td> <td>20名</td> <td>17名</td> <td>85%</td> <td>10名</td> <td></td> <td></td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>退学・除籍者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際人間科学部</td> <td>9名</td> <td>14名</td> <td>155%</td> <td>16名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども教育学部</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2名</td> <td>0名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>17名</td> <td>3名</td> <td>18%</td> <td>2名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価項目	平成29年度			平成30年度			平成31年度			留学生数			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	H29	H30	H31	① 入学定員充足率													国際地域学部	100名	115名	115%	100名	129名	129%	120名	154名	128%	68名	89名		こども教育学部	80名	20名	25%	80名	24名	30%	50名	30名	60%	0名	0名		大学院	10名	11名	110%	10名	10名	100%	10名	10名		8名	7名		短期大学部	90名	79名	88%	90名	84名	93%	90名			0名	2名		専攻科	10名	4名	40%	10名	11名	110%	—	—	—	0名	0名		② 収容定員充足率													国際地域学部	—	—	—	—	—	—	120名			—	—		国際人間科学部	470名	387名	82%	420名	413名	98%	320名			188名	229名		こども教育学部	80名	20名	25%	160名	42名	26%	220名			0名	0名		大学院	20名	23名	115%	20名	20名	100%	20名			16名	13名		短期大学部	260名	218名	84%	180名	162名	90%	180名			0名	2名		専攻科	20名	10名	50%	20名	17名	85%	10名			0名	0名		退学・除籍者数													国際人間科学部	9名	14名	155%	16名									こども教育学部	—	—	—	2名	0名								短期大学部	17名	3名	18%	2名									改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? 以下の対応を実施し、入学者の確保につなげていく。 <国際人間科学部> - 留学生教育支援センターの設立 - 留学生の教育や生活等支援を強化し、専門教育を受けられる体制を整備する。 - 平成32年度入学生の募集要項等へは、日本語力の水準等を明記していく。 - 留学生の質向上 - 中国、韓国、台湾等の高等学校と協定を締結し、水準の高い留学生を確保する。 - 留学生奨学金制度の見直し - 留学生＝奨学生を、生活困難者に対する奨学金制度へとシフトしていく。 - 奨学生と一般学生の違いを明確にし、特別感を出す制度とする。 <こども教育学部> - 小学校免許の取得 - 競合校と同水準とするため、小学校免許を取得できる体制とする。 <短期大学部> - 短期大学部単体のパンフレットの作成 - 大学の募集に重点を置いていたため、短期大学部の募集が薄れた。パンフレットを別冊とし、再度、短期大学は別でPRしていく。 次年度へ	
評価項目	平成29年度			平成30年度			平成31年度			留学生数																																																																																																																																																																																																																																															
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	H29	H30	H31																																																																																																																																																																																																																																													
① 入学定員充足率																																																																																																																																																																																																																																																									
国際地域学部	100名	115名	115%	100名	129名	129%	120名	154名	128%	68名	89名																																																																																																																																																																																																																																														
こども教育学部	80名	20名	25%	80名	24名	30%	50名	30名	60%	0名	0名																																																																																																																																																																																																																																														
大学院	10名	11名	110%	10名	10名	100%	10名	10名		8名	7名																																																																																																																																																																																																																																														
短期大学部	90名	79名	88%	90名	84名	93%	90名			0名	2名																																																																																																																																																																																																																																														
専攻科	10名	4名	40%	10名	11名	110%	—	—	—	0名	0名																																																																																																																																																																																																																																														
② 収容定員充足率																																																																																																																																																																																																																																																									
国際地域学部	—	—	—	—	—	—	120名			—	—																																																																																																																																																																																																																																														
国際人間科学部	470名	387名	82%	420名	413名	98%	320名			188名	229名																																																																																																																																																																																																																																														
こども教育学部	80名	20名	25%	160名	42名	26%	220名			0名	0名																																																																																																																																																																																																																																														
大学院	20名	23名	115%	20名	20名	100%	20名			16名	13名																																																																																																																																																																																																																																														
短期大学部	260名	218名	84%	180名	162名	90%	180名			0名	2名																																																																																																																																																																																																																																														
専攻科	20名	10名	50%	20名	17名	85%	10名			0名	0名																																																																																																																																																																																																																																														
退学・除籍者数																																																																																																																																																																																																																																																									
国際人間科学部	9名	14名	155%	16名																																																																																																																																																																																																																																																					
こども教育学部	—	—	—	2名	0名																																																																																																																																																																																																																																																				
短期大学部	17名	3名	18%	2名																																																																																																																																																																																																																																																					

I 経営力	実施項目	1. 財政基盤の確立と財務体質の強化	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(2) 外部資金及び補助金等獲得体制の強化	担当部署	事務局
		改定日	作成日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載		A (課題、改善策)																																																																																																																																																						
結果から見えてくることは？ ① 改革総合支援事業採択件数 ② 経営強化集中支援事業採択件数 - 補助金獲得プロジェクトチームにより採択率が向上したが、設問の水準が高くなり、対応しきれない。結果、すべて不採択となった。 ③ 科学研究費補助金採択件数 - 科研費の申請＝個人研究費の交付条件。申請率は高い。 - 平成28年度は、採択者が0名→外部講師による研修会実施。採択件数が増したが、継続して行っていないため、単年度での増加となっている。 ④ 特別補助金 - 平成28年度は、特別補助金の申請に対する意識が低かった。 - 平成29年度は、組織的に取り組み、採択件数および補助金交付額が増加した。 - 平成30年度は、平成29年度同様、組織的に取り組みを行い、対象となるものはすべて取りに行った。		課題 (何が問題?) ⇒ 改善策 (どうしたらいい?) - 補助要件の水準向上。 → 小規模校では対応が厳しい。 - 未実施項目の事後対応。 → 1年後まで確認等行っていない。 - 予算編成に大きく影響。 → 予算へ予測で含めている。 - 不採択の場合、影響大。 - 財務体質の改善。 → 補助金をあてにしない体質とする。 - 採択率向上の取り組みが不十分。 - 職員特別補助金に関する要件等の認識不足 - 補助金政策の動向を意識した業務の遂行																																																																																																																																																						
D (行動、結果)		P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																																																																						
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 改革総合支援事業採択率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>100%</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>100%</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>100%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>② 経営強化集中支援事業採択率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>③ 科学研究費補助金採択件数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際人間科学部</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>6%</td> <td>29%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>こども教育学部</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20%</td> <td>38%</td> <td>188%</td> <td>20%</td> <td>14%</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>8%</td> <td>42%</td> <td>20%</td> <td>7%</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>④ 特別補助金</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学</td> <td>—</td> <td>350千円</td> <td>—</td> <td>5,000千円</td> <td>2,250千円</td> <td>145%</td> <td>7,250千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5,000千円</td> <td>6,250千円</td> <td>125%</td> <td>6,250千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 改革総合支援事業採択率										鈴鹿大学	50%	50%	100%	50%	50%	100%	100%	0%	0%	短期大学部	50%	50%	100%	50%	50%	100%	50%	0%	0%	② 経営強化集中支援事業採択率										鈴鹿大学	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	短期大学部	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	③ 科学研究費補助金採択件数										国際人間科学部	20%	0%	0%	20%	6%	29%	20%	0%	0%	こども教育学部	—	—	—	20%	38%	188%	20%	14%	71%	短期大学部	20%	0%	0%	20%	8%	42%	20%	7%	36%	④ 特別補助金										鈴鹿大学	—	350千円	—	5,000千円	2,250千円	145%	7,250千円			短期大学部	—	—	—	5,000千円	6,250千円	125%	6,250千円			改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? ① 改革総合支援事業採択件数 設問内容がかなり変化し、水準が高くなってきている。文部科学省の予算要求段階の資料を基に予測し、対応していく。 ② 経営強化集中支援事業採択件数 学校法人運営調査委員会による調査結果を受け、経営改善計画の作成を求められている学校法人は、対象外となるため、申請が出来ない。経営の改善が急務となる。 ③ 科学研究費補助金採択件数 採択率を上げるため、F D・S D研修会を利用し、採択率向上に向けた研修会を実施する。 ④ 特別補助金 6月の補助金説明会直後に、F D・S D研修会で情報の共有を行う。 次年度へ	
評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																																																																																	
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																																																																															
① 改革総合支援事業採択率																																																																																																																																																								
鈴鹿大学	50%	50%	100%	50%	50%	100%	100%	0%	0%																																																																																																																																															
短期大学部	50%	50%	100%	50%	50%	100%	50%	0%	0%																																																																																																																																															
② 経営強化集中支援事業採択率																																																																																																																																																								
鈴鹿大学	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	0%	0%																																																																																																																																															
短期大学部	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	0%	0%																																																																																																																																															
③ 科学研究費補助金採択件数																																																																																																																																																								
国際人間科学部	20%	0%	0%	20%	6%	29%	20%	0%	0%																																																																																																																																															
こども教育学部	—	—	—	20%	38%	188%	20%	14%	71%																																																																																																																																															
短期大学部	20%	0%	0%	20%	8%	42%	20%	7%	36%																																																																																																																																															
④ 特別補助金																																																																																																																																																								
鈴鹿大学	—	350千円	—	5,000千円	2,250千円	145%	7,250千円																																																																																																																																																	
短期大学部	—	—	—	5,000千円	6,250千円	125%	6,250千円																																																																																																																																																	

I 経営力	実施項目	1. 財政基盤の確立と財務体質の強化	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(3) 寄付金事業の体制整備	担当部署	事務局
			改定日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載

A (課題、改善策)

結果から見えてくることは？

- ・大学25周年記念事業に対する寄付の依頼を、卒業生に対し行っていない。
- ・各講座の受講料を、寄付扱いとすることで、受講料支払者にとっては税金控除対象となる。

課題 (何が問題?)	改善策 (どうしたらいい?)
・卒業生、企業からの寄付金が少ない → 働きかけが不十分 ・留学生に対する依頼方法 → 現状、何も働きかけをしていない。 ・大学同窓会との連携 → 現状、情報共有等関わりがない。	・卒業生に対する情報発信を定期的に行う。 ・企業からの寄付金獲得の仕組みを構築する。 → 鈴りん探偵社等と連携。 ・同窓会との連携を強化する。 → 学長が中心となり、検討中。 → 同窓会加入者増の働き掛けを行う。

D (行動、結果)

P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載

どうなった？

(H31. 2月末現在)

① 特別寄付金	1,853,000円
・ 大学25周年寄付金	1,793,000円
・ スピーチコンテスト協賛金 (P'izi物流)	60,000円
① 一般寄付金	1,840,000円
・ SUZUKA TRY事業寄付金 (後援会)	1,000,000円
・ つなぐプロジェクト事業寄付金 (後援会)	300,000円
・ 各種受講料	540,000円

改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？

- ・ 大学25周年記念事業に対する寄付の依頼
- ・ 大学同窓会との関係修復
- ・ 受講料の寄付化制度の充実



次年度へ

I 経営力	実施項目	1. 財政基盤の確立と財務体質の強化	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(4) 内部留保金の確保	担当部署	事務局
			改定日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載

A (課題、改善策)

結果から見えてくることは？

- ・ 内部留保資産比率が、全国平均よりかなり低い。
- ・ こども教育学部の設置経費として平成28年度に取り崩しを行った。
(平成27年度内部留保資産比率1.93%)
- ・ 運用資産 (特定資産) を増やせる財務状況にない。

課題 (何が問題?)	改善策 (どうしたらいい?)
・ 特定資産への積み立てができない。 → 収支差額がマイナス状況。 ・ 財源が確保されていない。 → 財源である特定資産を取り崩した後、 積み立てができていない。 ・ 奨学金比率が高く、実収入が少ない。 (国際人間科学部) ※教育経費に占める奨学費の割合約40% 経費の約半分は奨学費以外に使用できない。	・ 収入総額を増やす。(学生確保) ・ 事業活動収支差額比率を黒字化する。 一定額を引当特定資産で計上する。 ・ 奨学金制度の効果を検証する。 採用基準等を見直す。

D (行動、結果)

P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載

どうなった？

評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率
① 内部留保資産比率	5%	△2%	△35%	5%	△0.7%	△15%	5%		

改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？

予算ヒアリングの実施

- ・ 継続経費の圧縮、新規事業計画の妥当性の検証
- ・ 予算編成方針に沿った予算の策定
- ・ 教学に関する事業への重点配分



次年度へ

I 経営力	実施項目	2. ガバナンス及び内部統制の強化	対象年度	平成30年度を振り返る																													
	活動内容	(1) 意識向上に必要な研修会の開催	担当部署	事務局																													
			改定日	平成31年3月8日																													
C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載			A (課題、改善策)																														
結果から見えてくることは？ ・SDの義務化により、教職員を対象に主要テーマに沿った研修会を開催。 ・講演形式の研修会が多く、理解度等について検証できていない。			課題 (何が問題?) → 改善策 (どうしたらいい?) ・FD・SD部会は、FDがメイン。 ・講演形式の研修会が多い。 ・身についているかの確認が無い。 ・グループワークを実施する。 ・発表の場を設ける。 ・研修結果等の評価 (フィードバック) を行う。																														
D (行動、結果)			P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																														
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 研修会実施回数</td> <td>12回</td> <td>11回</td> <td>92%</td> <td>12回</td> <td>9回</td> <td>75%</td> <td>12回</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 研修会実施回数	12回	11回	92%	12回	9回	75%	12回			改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? 経営教学評議会の設置 ・規定等の見直しおよび勉強会 ・補助金要件に関する研修会	
評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度																										
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																								
① 研修会実施回数	12回	11回	92%	12回	9回	75%	12回																										

実行

次年度へ

I 経営力	実施項目	3. 施設設備の充実	対象年度	平成30年度を振り返る																																													
	活動内容	(1) 安全・安心を確保する学修環境の整備	担当部署	事務局																																													
			改定日	平成31年3月8日																																													
C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載			A (課題、改善策)																																														
結果から見えてくることは? 実施した事業は、以下のとおり。 <平成28年度> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>金額</th> <th>点検指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号機エレベーター (管理研究棟) の修繕工事</td> <td>2,592千円</td> <td>点検指標</td> </tr> <tr> <td>図書館LED化整備工事</td> <td>5,693千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B棟2階オープンスペース壁増設工事</td> <td>994千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <平成29年度> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>金額</th> <th>補助金対象</th> <th>学生要望</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B・C棟トイレ洋式化改修工事</td> <td>5,061千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>講義室 (A・B棟) 音響設備改修工事</td> <td>4,263千円</td> <td>補助金対象</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中庭インターロッキング改修工事</td> <td>1,663千円</td> <td></td> <td>学生要望</td> </tr> <tr> <td>グラウンド設備設置工事</td> <td>3,002千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水ポンプ改修工事</td> <td>2,119千円</td> <td>点検指標</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <平成30年度> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A・厚生棟トイレ洋式化改修工事</td> <td>3,348千円</td> </tr> <tr> <td>厚生棟2階 (食堂) 空調新設工事 (総額17,376千円)</td> <td>869千円 (145千円×6ヵ月)</td> </tr> <tr> <td>※120回 (10年) リース</td> <td>144,800円/月 1,737,600円/年</td> </tr> </tbody> </table>			事業名	金額	点検指標	1号機エレベーター (管理研究棟) の修繕工事	2,592千円	点検指標	図書館LED化整備工事	5,693千円		B棟2階オープンスペース壁増設工事	994千円		事業名	金額	補助金対象	学生要望	B・C棟トイレ洋式化改修工事	5,061千円			講義室 (A・B棟) 音響設備改修工事	4,263千円	補助金対象		中庭インターロッキング改修工事	1,663千円		学生要望	グラウンド設備設置工事	3,002千円			給水ポンプ改修工事	2,119千円	点検指標		事業名	金額	A・厚生棟トイレ洋式化改修工事	3,348千円	厚生棟2階 (食堂) 空調新設工事 (総額17,376千円)	869千円 (145千円×6ヵ月)	※120回 (10年) リース	144,800円/月 1,737,600円/年	課題 (何が問題?) → 改善策 (どうしたらいい?) ・定期的なメンテナンスを実施していない →25年手つかず。老朽化により破損多発。 壊れてから修理の悪循環が発生している。 ・必要な予算が確保できない ・修繕箇所リスト作成 →優先順位を決め、年度計画で修理を実施。 ・年間点検項目リストの作成 →定期点検の実施		
事業名	金額	点検指標																																															
1号機エレベーター (管理研究棟) の修繕工事	2,592千円	点検指標																																															
図書館LED化整備工事	5,693千円																																																
B棟2階オープンスペース壁増設工事	994千円																																																
事業名	金額	補助金対象	学生要望																																														
B・C棟トイレ洋式化改修工事	5,061千円																																																
講義室 (A・B棟) 音響設備改修工事	4,263千円	補助金対象																																															
中庭インターロッキング改修工事	1,663千円		学生要望																																														
グラウンド設備設置工事	3,002千円																																																
給水ポンプ改修工事	2,119千円	点検指標																																															
事業名	金額																																																
A・厚生棟トイレ洋式化改修工事	3,348千円																																																
厚生棟2階 (食堂) 空調新設工事 (総額17,376千円)	869千円 (145千円×6ヵ月)																																																
※120回 (10年) リース	144,800円/月 1,737,600円/年																																																
D (行動、結果)			P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																														
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 環境整備予算の確保</td> <td>7,000千円</td> <td>7,000千円</td> <td>100%</td> <td>20,000千円</td> <td>20,000千円</td> <td>100%</td> <td>6,000千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 環境整備予算の確保	7,000千円	7,000千円	100%	20,000千円	20,000千円	100%	6,000千円			改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? 1. トイレ洋式化第II期改修工事 4月 A棟・厚生棟 3,348千円 (総務課) 2. 空調新設工事 9月 厚生棟2F食堂 17,376千円 (総務課)・・・10年リース 145千円/月 (1,737千円/年) 3. 次年度実施計画案の策定 H30.10月 当該年度実施項目の進捗管理 (総務課) H30.11月 次年度実施項目の抽出、精査 (事務局全体) H30.12月 平成31年度当初予算案の策定・提出 (総務課) H31.1月 全体予算のヒアリング (総務課)・・・予算の確保 <平成31年度以降の環境整備実施予定項目> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>項目</th> <th>予算額 (概算)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">平成31年度以降</td> <td>(1) 空調設備 (全館) 改修工事</td> <td>130,000,000</td> </tr> <tr> <td>(2) エレベーターリニューアル工事</td> <td>13,250,000</td> </tr> <tr> <td>(3) 火災報知機防火盤更新</td> <td>7,000,000</td> </tr> <tr> <td>(4) 防水シート修繕工事</td> <td>18,000,000</td> </tr> <tr> <td>(5) 講義室LED化</td> <td>6,000,000</td> </tr> <tr> <td>(6) 事務局・体育館LED化</td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table>		時期	項目	予算額 (概算)	平成31年度以降	(1) 空調設備 (全館) 改修工事	130,000,000	(2) エレベーターリニューアル工事	13,250,000	(3) 火災報知機防火盤更新	7,000,000	(4) 防水シート修繕工事	18,000,000	(5) 講義室LED化	6,000,000	(6) 事務局・体育館LED化	1,500,000
評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度																																										
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																								
① 環境整備予算の確保	7,000千円	7,000千円	100%	20,000千円	20,000千円	100%	6,000千円																																										
時期	項目	予算額 (概算)																																															
平成31年度以降	(1) 空調設備 (全館) 改修工事	130,000,000																																															
	(2) エレベーターリニューアル工事	13,250,000																																															
	(3) 火災報知機防火盤更新	7,000,000																																															
	(4) 防水シート修繕工事	18,000,000																																															
	(5) 講義室LED化	6,000,000																																															
	(6) 事務局・体育館LED化	1,500,000																																															

実行

次年度へ

Ⅱ 募集力	実施項目	1. 社会的責務としての定員充足達成とその継続	対象年度	平成30年度を振り返る																																																																																																																																											
	活動内容	(1) 入学者数の確保	担当部署	入試広報キャリア部																																																																																																																																											
			改定日	平成31年3月12日 作成日 平成30年11月12日																																																																																																																																											
C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載			A (課題、改善策)																																																																																																																																												
結果から見えてくることは？ <国際人間科学部> ・4年連続して入学定員充足率100%達成。 ・H31年度も募集目標の1.29倍を達成出来た。 ・留学生が大幅に増えたことが大きく寄与している。 <こども教育学部> ・受験生も少なく、設置後2年連続で定員を大幅に満たすことが出来なかった。 <短期大学部> ・こども教育学部の設置に伴い、平成29年度から入学定員を80名減(170名→90名)としたにもかかわらず、4年連続して入学定員100%を達成していない。 ・オープンキャンパスでは短期大学部を希望する参加者は年々減少している。 <大学院> ・4年連続して入学定員充足率100%を達成していることは評価出来る。			課題(何が問題?) → 改善策(どうしたらいい?) <国際人間科学部> ・1.29倍の入学者を確保できた。 ・留学生が増加。一般学生少ない。 ・改組転換入学定員を20名増も定員充足 ・昨年度以上の入学者確保が必須。 <こども教育学部> ・平成31年度から入学定員を30名減。 ・過去2年間の実績では、危機的状況。 ・具体的な活動計画が必須。 <短期大学部> ・ユマニテック短期大学に受験生が流れた。 ・高田短大と3校での競争となる。 ・入学者の多数を占めるAO入試が、減少傾向。 ・オープンキャンパスへの動員を増やす ・特に短期大学部希望者は3月より動く傾向。 ・早めの参加を呼びかけること。 ① 入学者を増やすため、平成29年度より学生主導によるオープンキャンパスとしてSUZUKA9による取組を行っている。高校生に一番近い年代の在校生が接触する機会を増やし親近感ももてる大学であることをアピールする。 ② 教員との連携をとり、高校訪問等により大学の魅力を伝える機会を増やしている。 ③ こども教育学部に特化した学部案内を作成するなどして、入学者の確保に努めている。 ④ TSUNAGUプロジェクトで高校の内部に入り込む必要がある。																																																																																																																																												
D (行動、結果)			P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																																																												
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 入学者目標達成率(国際)</td> <td>129</td> <td>117</td> <td>91%</td> <td>129</td> <td>115</td> <td>89%</td> <td>129</td> <td>129</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>① 入学者目標達成率(こども)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>103</td> <td>20</td> <td>19%</td> <td>103</td> <td>24</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>① 入学者目標達成率(大学院)</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>100%</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>110%</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>① 入学者目標達成率(短大)</td> <td>219</td> <td>136</td> <td>62%</td> <td>116</td> <td>79</td> <td>68%</td> <td>116</td> <td>84</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>① 編入入学目標達成率(国際)</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>130%</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>100%</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>140%</td> </tr> <tr> <td>① 編入入学目標達成率(こども)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>② 受験者数(国際)</td> <td>150</td> <td>137</td> <td>91%</td> <td>150</td> <td>134</td> <td>89%</td> <td>150</td> <td>179</td> <td>119%</td> </tr> <tr> <td>② 受験者数(こども)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>80</td> <td>21</td> <td>26%</td> <td>80</td> <td>30</td> <td>38%</td> </tr> <tr> <td>② 受験者数(短大)</td> <td>220</td> <td>149</td> <td>68%</td> <td>120</td> <td>86</td> <td>72%</td> <td>120</td> <td>95</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>③ OC参加者数(国際)</td> <td>150</td> <td>54</td> <td>36%</td> <td>150</td> <td>42</td> <td>28%</td> <td>150</td> <td>98</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>③ OC参加者数(こども)</td> <td>100</td> <td>59</td> <td>59%</td> <td>100</td> <td>64</td> <td>64%</td> <td>100</td> <td>76</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>③ OC参加者数(短大)</td> <td>350</td> <td>291</td> <td>83%</td> <td>300</td> <td>263</td> <td>88%</td> <td>300</td> <td>195</td> <td>65%</td> </tr> </tbody> </table>			評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 入学者目標達成率(国際)	129	117	91%	129	115	89%	129	129	100%	① 入学者目標達成率(こども)	-	-	-	103	20	19%	103	24	23%	① 入学者目標達成率(大学院)	10	10	100%	10	11	110%	10	10	100%	① 入学者目標達成率(短大)	219	136	62%	116	79	68%	116	84	72%	① 編入入学目標達成率(国際)	10	13	130%	10	10	100%	10	14	140%	① 編入入学目標達成率(こども)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	② 受験者数(国際)	150	137	91%	150	134	89%	150	179	119%	② 受験者数(こども)	-	-	-	80	21	26%	80	30	38%	② 受験者数(短大)	220	149	68%	120	86	72%	120	95	79%	③ OC参加者数(国際)	150	54	36%	150	42	28%	150	98	65%	③ OC参加者数(こども)	100	59	59%	100	64	64%	100	76	76%	③ OC参加者数(短大)	350	291	83%	300	263	88%	300	195	65%	改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? ・中国・韓国・台湾の高校等との高大接続協定締結の実施 ⇒ 国際化ビジョンに基づき、グローバル化を目指している。これまでの留学生獲得に加え、さらに、優秀な留学生の勧誘を増やす。 ・日本人学生の獲得 ⇒ TSUNAGUプロジェクト等を媒介として、本学の取り組みや教育の中身を発信する。 - 平成30年度から、県内の商業高校にて、駅プロジェクトの紹介を行っている。 ・競合する他大学にない強み(売れる商品)作り ⇒ 売れる商品=「魅力ある授業内容」、「この先生なら生徒を預けたい」と思ってもらえる教員の資質向上を目指すための改善依頼。 ・オープンキャンパスの改善 ⇒ 平成31年度も、学生広報部SUZUKA9(スズカナイン)の活動を継続する。 - TSUNAGUプロジェクト型入試のTSUNAGU塾を開設する。 ・高校側進路指導部担当教諭との信頼関係の構築 ⇒ 生徒を送ってもらえるような会話実施。 ・大学案内の短期大学部強化 ⇒ 短期大学部の印象が薄れたため、リーフレットを作成する。 ・目標値 ⇒ 入学定員数×1.29倍	
評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																																																																								
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																																																																						
① 入学者目標達成率(国際)	129	117	91%	129	115	89%	129	129	100%																																																																																																																																						
① 入学者目標達成率(こども)	-	-	-	103	20	19%	103	24	23%																																																																																																																																						
① 入学者目標達成率(大学院)	10	10	100%	10	11	110%	10	10	100%																																																																																																																																						
① 入学者目標達成率(短大)	219	136	62%	116	79	68%	116	84	72%																																																																																																																																						
① 編入入学目標達成率(国際)	10	13	130%	10	10	100%	10	14	140%																																																																																																																																						
① 編入入学目標達成率(こども)	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																						
② 受験者数(国際)	150	137	91%	150	134	89%	150	179	119%																																																																																																																																						
② 受験者数(こども)	-	-	-	80	21	26%	80	30	38%																																																																																																																																						
② 受験者数(短大)	220	149	68%	120	86	72%	120	95	79%																																																																																																																																						
③ OC参加者数(国際)	150	54	36%	150	42	28%	150	98	65%																																																																																																																																						
③ OC参加者数(こども)	100	59	59%	100	64	64%	100	76	76%																																																																																																																																						
③ OC参加者数(短大)	350	291	83%	300	263	88%	300	195	65%																																																																																																																																						

次年度へ

Ⅱ 募集力	実施項目	2. 県内高校生(若年層)への広報強化	対象年度	平成30年度を振り返る																																																																																																																																	
	活動内容	(1) 資料請求件数の拡大・(2) SNS等による情報発信・(3) 高校訪問及びガイダンスの強化	担当部署	入試広報キャリア部																																																																																																																																	
			改定日	平成31年3月12日 作成日 平成30年11月12日																																																																																																																																	
C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載			A (課題、改善策)																																																																																																																																		
結果から見えてくることは？ (1) 資料請求件数の拡大 ① 資料請求は、大学に興味を持ってもらう最初の段階であり、契約媒体を使い行っている。 資料の請求において、大学の学部別に区別にするのが難しかったり、大学が短大か区分が分りづらいものがある。その場合は、大学と短大の両方の資料を送るようにしている。 ② 評価件数の目標数値が妥当かどうかについては、検討をする必要がある。 (2) SNS等による情報発信 ① ホームページは改善され、更新を行っているが更に必要である。 ② 職員の改善意識が低い。 ③ ニュースリリース、新聞等記事への情報発信が十分であるとはいえない。 (3) 高校訪問及びガイダンスの強化 ① 高校訪問は学生募集の最大の機会と捉え、職員が担当校を持ち計画的に訪問を実施。 学生募集の結果として見えない部分もあり評価は難しい。成果がなければ評価されない。 ② 学校や会場で開催されるガイダンスは高校生に面談できる最高の機会である。 平成29年度は、重点活動項目として出来るだけ参加をするようにしたこと、参加実績192件として数字でも表われている。			課題(何が問題?) → 改善策(どうしたらいい?) (1) 資料請求件数の拡大 ① 契約媒体ごとの資料請求件数の検証未実施。 ② ホームページを見ての資料請求が多い。 ③ 学生応援サイトの更なる充実が必要である。 (2) SNS等による情報発信 ① 職員全員が関心をもっていない。 日理事務の一環として位置づけていない。 ① ホームページ閲覧当番担当制の見直し。 チェックをする体制を確立する。 ② 全教職員への意識付け。 (3) 高校訪問及びガイダンスの強化 ① 高校現場への浸透程度の検証難しい。 ② ガイダンスの精査の実施。 ① 教職員協力体制による積極的、計画的な高校訪問の実施。 ② 新しい情報提供方法の工夫の検討。																																																																																																																																		
D (行動、結果)			P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																																																		
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 資料請求件数の拡大</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① 資料請求件数(大学)</td> <td>1,000</td> <td>652</td> <td>65%</td> <td>1,200</td> <td>1,179</td> <td>98%</td> <td>1,200</td> <td>778</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>① 資料請求件数(短大)</td> <td>600</td> <td>657</td> <td>110%</td> <td>600</td> <td>570</td> <td>95%</td> <td>600</td> <td>425</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>② SNS等による情報発信</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① H P等の更新件数</td> <td>100</td> <td>90</td> <td>90%</td> <td>100</td> <td>110</td> <td>110%</td> <td>100</td> <td>81</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>② ニュースリリース発信件</td> <td>100</td> <td>38</td> <td>38%</td> <td>100</td> <td>28</td> <td>28%</td> <td>100</td> <td>9</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>③ 新聞等記事掲載件数</td> <td>100</td> <td>29</td> <td>29%</td> <td>100</td> <td>76</td> <td>76%</td> <td>100</td> <td>22</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>③ 高校訪問及びガイダンスの強化</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① 高校訪問件数</td> <td>500</td> <td>348</td> <td>70%</td> <td>500</td> <td>412</td> <td>82%</td> <td>400</td> <td>213</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>② ガイダンス実施件数</td> <td>150</td> <td>144</td> <td>96%</td> <td>200</td> <td>192</td> <td>96%</td> <td>150</td> <td>84</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>③ 広報活動学内研修件数</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>30%</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>80%</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table>			評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 資料請求件数の拡大										① 資料請求件数(大学)	1,000	652	65%	1,200	1,179	98%	1,200	778	65%	① 資料請求件数(短大)	600	657	110%	600	570	95%	600	425	71%	② SNS等による情報発信										① H P等の更新件数	100	90	90%	100	110	110%	100	81	81%	② ニュースリリース発信件	100	38	38%	100	28	28%	100	9	9%	③ 新聞等記事掲載件数	100	29	29%	100	76	76%	100	22	22%	③ 高校訪問及びガイダンスの強化										① 高校訪問件数	500	348	70%	500	412	82%	400	213	53%	② ガイダンス実施件数	150	144	96%	200	192	96%	150	84	56%	③ 広報活動学内研修件数	10	3	30%	15	12	80%	10	3	30%	改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? (1) 資料請求件数の拡大 ・受験生応援サイトの充実 ⇒ 学生の大学生活の様子を見せられるようなページ構成とする。 ・ホームページの内容充実 ⇒ 職員がホームページのチェックを行い、こまめに更新を行う。 ・こども教育学部資料請求数150件目指す ⇒ リクルート進学事典先輩企画ページへの掲載。 (2) SNS等による情報発信 ・ホームページ更新頻度の増加 ⇒ イベント等主管する部署へ、掲示板への情報アップを促す。 ・ニュースリリース件数の増加 ⇒ 情報管理者を決め、承認を得る仕組みへの変更。 ・TSUNAGUプロジェクトの情報発信の定例化 ⇒ 月1回定期的に実施。 ・SUZUKA9運営 SNSの充実 ⇒ SUZUKA9への声掛け(働き掛け)を継続実施。 ・Facebookの充実 ⇒ 教員の担当を決め、定期的アップが出来ている。今後も継続実施。 (3) 高校訪問及びガイダンスの強化 ・高校訪問の積極的な実施 ⇒ 教職員が協力して、情報共有しながら効率的に訪問を行う。 ⇒ 教学の中身の紹介は、積極的に教員が出向くようにする。 ・新規情報提供用広報物の制作 ⇒ 高校訪問時の新しい情報提供用、広報物の制作。 (TSUNAGUプロジェクト、学部情報、イベント情報など)	
評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																																																														
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																																																												
① 資料請求件数の拡大																																																																																																																																					
① 資料請求件数(大学)	1,000	652	65%	1,200	1,179	98%	1,200	778	65%																																																																																																																												
① 資料請求件数(短大)	600	657	110%	600	570	95%	600	425	71%																																																																																																																												
② SNS等による情報発信																																																																																																																																					
① H P等の更新件数	100	90	90%	100	110	110%	100	81	81%																																																																																																																												
② ニュースリリース発信件	100	38	38%	100	28	28%	100	9	9%																																																																																																																												
③ 新聞等記事掲載件数	100	29	29%	100	76	76%	100	22	22%																																																																																																																												
③ 高校訪問及びガイダンスの強化																																																																																																																																					
① 高校訪問件数	500	348	70%	500	412	82%	400	213	53%																																																																																																																												
② ガイダンス実施件数	150	144	96%	200	192	96%	150	84	56%																																																																																																																												
③ 広報活動学内研修件数	10	3	30%	15	12	80%	10	3	30%																																																																																																																												

次年度へ

Ⅱ 募集力	実施項目	3. 年齢や国籍を問わない多様性のある募集への移行	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1)留学生を対象とする募集活動の強化・(2)シニア・社会人学生の入学者確保	担当部署	入試広報キャリア部
		改定日	平成31年3月12日	作成日 平成30年11月12日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																																																																																													
結果から見えてくることは？ (1)留学生を対象とする募集活動の強化 ①平成29年度は前年度より日本学校訪問の件数が減ったのは、担当換え等の異動の影響もあり減った。 重点校の引継ぎは出来る限りしており募集への影響は抑えられたと考える。 ②新たな現地入試先とは業務委託方式での入試を行い、経費がかからないように努めた。 (2)シニア・社会人学生の入学者確保 ①シニア・社会人の入学者が十分であるとはいえない。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> (1)留学生を対象とする募集活動の強化 ①遠方の日本語学校への訪問は、費用と時間がかかることもあり課題である。 ②以前の担当者が日本学校と強い信頼関係を構築しており、課をまたいでの協力体制を継続し続けることが出来るかが課題である。 ③留学生の応募が1期に集中し合格者の確定が非常に難しかった。 また、日本語能力のレベルが低い留学生を合格させざるを得なかった状況がある。 (2)シニア・社会人学生の入学者確保 ①広報活動として入試情報の発信が難しく、入学者増につなぐことが出来ないのが。 </td> <td>⇒</td> <td> ①優秀な留学生を確保するために、1期での出願出来るように日本が学校への働きかけを行う。 ②留学生の受験者は増えているが、関係者との関係作りも必要であり、重点校には引き続き継続的に訪問を行う。 ①学校関係者が関係する学内外での行事でチラシ等の広報物の配布を行い情報の提供を行う。 入試広報キャリア課との連携を構築する。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	(1)留学生を対象とする募集活動の強化 ①遠方の日本語学校への訪問は、費用と時間がかかることもあり課題である。 ②以前の担当者が日本学校と強い信頼関係を構築しており、課をまたいでの協力体制を継続し続けることが出来るかが課題である。 ③留学生の応募が1期に集中し合格者の確定が非常に難しかった。 また、日本語能力のレベルが低い留学生を合格させざるを得なかった状況がある。 (2)シニア・社会人学生の入学者確保 ①広報活動として入試情報の発信が難しく、入学者増につなぐことが出来ないのが。	⇒	①優秀な留学生を確保するために、1期での出願出来るように日本が学校への働きかけを行う。 ②留学生の受験者は増えているが、関係者との関係作りも必要であり、重点校には引き続き継続的に訪問を行う。 ①学校関係者が関係する学内外での行事でチラシ等の広報物の配布を行い情報の提供を行う。 入試広報キャリア課との連携を構築する。																																																																																																							
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																																																																																												
(1)留学生を対象とする募集活動の強化 ①遠方の日本語学校への訪問は、費用と時間がかかることもあり課題である。 ②以前の担当者が日本学校と強い信頼関係を構築しており、課をまたいでの協力体制を継続し続けることが出来るかが課題である。 ③留学生の応募が1期に集中し合格者の確定が非常に難しかった。 また、日本語能力のレベルが低い留学生を合格させざるを得なかった状況がある。 (2)シニア・社会人学生の入学者確保 ①広報活動として入試情報の発信が難しく、入学者増につなぐことが出来ないのが。	⇒	①優秀な留学生を確保するために、1期での出願出来るように日本が学校への働きかけを行う。 ②留学生の受験者は増えているが、関係者との関係作りも必要であり、重点校には引き続き継続的に訪問を行う。 ①学校関係者が関係する学内外での行事でチラシ等の広報物の配布を行い情報の提供を行う。 入試広報キャリア課との連携を構築する。																																																																																																												
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																													
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>(1)留学生を対象とする募集活動の強化</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 日本語学校訪問件数</td> <td>100</td> <td>71</td> <td>71%</td> <td>70</td> <td>37</td> <td>53%</td> <td>50</td> <td>14</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>② 留学生入学者数</td> <td>30</td> <td>54</td> <td>180%</td> <td>50</td> <td>68</td> <td>136%</td> <td>50</td> <td>91</td> <td>182%</td> </tr> <tr> <td>③ 現地入試協定校数</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>80%</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>83%</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>(2)シニア・社会人学生の入学者確保</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① シニア・社会人入学者数</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>(国際)</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>20%</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>(子ども)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>60%</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>(短大)</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>120%</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>90%</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>120%</td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	(1)留学生を対象とする募集活動の強化										① 日本語学校訪問件数	100	71	71%	70	37	53%	50	14	28%	② 留学生入学者数	30	54	180%	50	68	136%	50	91	182%	③ 現地入試協定校数	10	8	80%	12	10	83%	14	11	79%	(2)シニア・社会人学生の入学者確保										① シニア・社会人入学者数										(国際)	5	1	20%	5	0	0%	5	0	0%	(子ども)	-	-	-	5	3	60%	5	0	0%	(短大)	10	12	120%	10	9	90%	10	12	120%	改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ (1)留学生を対象とする募集活動の強化 ・在学中の留学生満足度の向上 ⇒ 口コミで留学生出願者が増加している。今後も継続が予測される。 在学中の留学生の満足度を高めることが、優先事項となる。 ・海外からの留学生確保 ⇒ 国内の日本語学校からの進学者が多い状況。海外からの留学生確保も必要となる。 諸外国の海外進学者率は、まだまだ増加傾向にある。海外の高校や日本語学校からの出願者を増やすため、海外の学校との協定等締結を目指す。 (2)シニア・社会人学生の入学者確保 ・授業環境の充実 ⇒ 奨学金から授業環境の充実による入学者確保へ移行する。 科目数増、始業時刻の変更、仕事での実践を単位化、初年次セミナー対象外、役割付与など。 ・イメージ戦略 ⇒ 「シニアの鈴大」というイメージ戦略を行う。 ・近隣地域との連携 ⇒ 郡山公民館や亀山市中央公民館との連携強化。シニア層広報積極の実施。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																																						
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																																					
(1)留学生を対象とする募集活動の強化																																																																																																														
① 日本語学校訪問件数	100	71	71%	70	37	53%	50	14	28%																																																																																																					
② 留学生入学者数	30	54	180%	50	68	136%	50	91	182%																																																																																																					
③ 現地入試協定校数	10	8	80%	12	10	83%	14	11	79%																																																																																																					
(2)シニア・社会人学生の入学者確保																																																																																																														
① シニア・社会人入学者数																																																																																																														
(国際)	5	1	20%	5	0	0%	5	0	0%																																																																																																					
(子ども)	-	-	-	5	3	60%	5	0	0%																																																																																																					
(短大)	10	12	120%	10	9	90%	10	12	120%																																																																																																					

次年度へ

Ⅱ 募集力	実施項目	4. 自ら課題を発見し、問題解決し、世界に発信できる学生の募集	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) TSUNAGU PROJECTの推進	担当部署	入試広報キャリア部
		改定日	平成31年3月12日	作成日 平成30年11月12日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																							
結果から見えてくることは？ ①平成30年度より始まった事業であるが、平成30年度はオープンキャンパスとも連携が取れたことは評価出来る。 ②平成30年度オープンキャンパスでの伊勢鉄道を使つての企画に16名の高校生が参加した。 ③すずかだいがく 子どもひろばには18名の高校生が参加した。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> ①今後はどのように周知し、拡大を続けるか。 ②現在検討が進んでいる入試改革では入試実施項目にTSUNAGU型入試を取り入れる計画であり、高校生の参加を促す取組が必要。 </td> <td>⇒</td> <td> ①高校訪問等を通じて周知を行っていく。 ②SNS等での情報発信を高める。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	①今後はどのように周知し、拡大を続けるか。 ②現在検討が進んでいる入試改革では入試実施項目にTSUNAGU型入試を取り入れる計画であり、高校生の参加を促す取組が必要。	⇒	①高校訪問等を通じて周知を行っていく。 ②SNS等での情報発信を高める。																																	
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																						
①今後はどのように周知し、拡大を続けるか。 ②現在検討が進んでいる入試改革では入試実施項目にTSUNAGU型入試を取り入れる計画であり、高校生の参加を促す取組が必要。	⇒	①高校訪問等を通じて周知を行っていく。 ②SNS等での情報発信を高める。																																						
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																							
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>① PJ高校生参加者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>50</td> <td>34</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>② PJ高校生参加者からの入</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① PJ高校生参加者数	-	-	-	-	-	-	50	34	68%	② PJ高校生参加者からの入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ <駅プロジェクト> (1) 公共交通活性化事業 伊勢鉄道、C-BUSとの連携 (2) 道の駅活性化事業 紀宝町道の駅ウミガメ公園、御浜町の駅七里御浜との連携 (3) ネコギギプロジェクト MieMuショップでの商品開発 (4) インバウンド振興ホームページプロジェクト ホームページの開設 (5) 鈴鹿抹茶ブランド化プロジェクト A G F 鈴鹿や太田通商との連携 (6) L I X L 三重支店トイレプロジェクト 世界のトイレについて考える (7) 菰野町観光動画プロモーションプロジェクト 動画制作 <つなぐ育ちプロジェクト> (1) 子育て支援すずらん広場 毎週月曜日に子育て支援 (2) すずかだいがく 子どもひろば 学生たちによる子ども向けイベント (3) ジュニアアスリートへの栄養教育 スポーツ栄養サポート研究会GrowUpによる栄養教育 (4) 性教育出前講座 命の大切さを伝えるための出前講座 (5) いのちの教育人形劇 交通事故で子を亡くした母による人形劇上演 (6) つなぐ育ち事例勉強会 2019年9月17日 (火) 13:00-16:00 「精神・発達障害者雇用を考える」セミナー (7) 亀山市教育委員会との共催 「つなぐ育ち研修会」年2回実施
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																															
① PJ高校生参加者数	-	-	-	-	-	-	50	34	68%																															
② PJ高校生参加者からの入	-	-	-	-	-	-	-	-	-																															

次年度へ

Ⅱ 募集力	実施項目	5. 三重国体に向けた運動クラブの募集強化	対象年度	平成30年度を振り替える
	活動内容	(1) 強化クラブ入学者の確保	担当部署	入試広報キャリア部
			改定日	作成日 平成30年11月12日

C (振り返り、検証) ※事業報告に記載	A (課題、改善策)																																							
結果から見えてくることは？ ① 強化クラブ学生の入学は、一般学生の入学者として大きく寄与している	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> ① 奨学金の問題もあり、他校との競合となり獲得が難しい。 ② 高校生の就職環境が非常によくなっていることも影響している。 進学から就職への進路変更を行う生徒が増加確保が難しい状況が出てきている。 ③ クラブ指導者が入試広報キャリア課に全員配属されており、事務的業務とクラブ指導業務及び募集業務との兼ね合いが難しい部分もある。 </td> <td>⇒</td> <td> ① 入学した学生の満足度を高める、引続き後輩を引受けられる環境づくりのために練習環境の整備等全学あての支援も必要である。 ② 強化クラブから教職員への情報発信を行う事が理解を得るためにも必要である。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	① 奨学金の問題もあり、他校との競合となり獲得が難しい。 ② 高校生の就職環境が非常によくなっていることも影響している。 進学から就職への進路変更を行う生徒が増加確保が難しい状況が出てきている。 ③ クラブ指導者が入試広報キャリア課に全員配属されており、事務的業務とクラブ指導業務及び募集業務との兼ね合いが難しい部分もある。	⇒	① 入学した学生の満足度を高める、引続き後輩を引受けられる環境づくりのために練習環境の整備等全学あての支援も必要である。 ② 強化クラブから教職員への情報発信を行う事が理解を得るためにも必要である。																																	
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																						
① 奨学金の問題もあり、他校との競合となり獲得が難しい。 ② 高校生の就職環境が非常によくなっていることも影響している。 進学から就職への進路変更を行う生徒が増加確保が難しい状況が出てきている。 ③ クラブ指導者が入試広報キャリア課に全員配属されており、事務的業務とクラブ指導業務及び募集業務との兼ね合いが難しい部分もある。	⇒	① 入学した学生の満足度を高める、引続き後輩を引受けられる環境づくりのために練習環境の整備等全学あての支援も必要である。 ② 強化クラブから教職員への情報発信を行う事が理解を得るためにも必要である。																																						
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																							
どうなった？ <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 硬式野球部入学者数</td> <td>30</td> <td>34</td> <td>113%</td> <td>25</td> <td>24</td> <td>96%</td> <td>30</td> <td>26</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>② 女子バレーボール部入学</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>40%</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>60%</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 硬式野球部入学者数	30	34	113%	25	24	96%	30	26	87%	② 女子バレーボール部入学	10	4	40%	10	6	60%	10	6	60%	改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ ・今年度の硬式野球部の募集については、動き出しが遅かったため、11名の学生しか確保できなかったことを受け、来年度は早くから、募集活動ができるような体制を強化する。 ・女子バレー部は9名の学生を確保。高校との関係性を引き続き強化していく。 ・強化クラブの学生の満足度は高くないため、練習環境の整備や学生への支援体制を整える必要がある。 ・強化クラブ規程で、強化クラブ会議を開催することができるので、定期的に強化クラブ会議を開催し、課題の共有や問題解決などを迅速に図っていく。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																															
① 硬式野球部入学者数	30	34	113%	25	24	96%	30	26	87%																															
② 女子バレーボール部入学	10	4	40%	10	6	60%	10	6	60%																															

次年度へ

Ⅲ 教育力	実施項目	1. 他校にない特色 (魅力品質) づくり	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 (2) 国際交流事業の推進 (3) ボランティア活動への参加の推進	担当部署	教務・学生支援部
			改定日	作成日 平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																																																																																			
結果から見えてくることは？ (1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 ＜国際人間科学部＞ ・英語教育 (能力別クラス) の充実を図った。 「オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ」週4回、「オーラルコミュニケーションⅢ～Ⅵ」週2回 ・日本語教育 (留学生対象、能力別クラス) の充実を図った。 「日本語講義Ⅰ・Ⅱ」「日本語作文Ⅰ・Ⅱ」「日本語会話Ⅰ・Ⅱ」週2回 (2) 国際交流事業の推進 ・平成29年度留学生交流推進事業として計画され、実施した実績は、良好であった。 ・平成30年度の事業は、後期に実施予定である。 (3) ボランティア活動への参加の推進 ・多文化共生社会の実現に向けた取り組み、グローバルスタディ (学生地域ボランティア活動) として国際経験豊富な学生を地域に派遣し、実績を得た。 ・総務、教務学生支援、入試広報キャリアと、ボランティアにかかわる部署が分散し、統計的把握も、学生への説明会なども不十分だった。 ・災害があったときに、ボランティアや募金活動に取り組む学生・サークルがあった	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> (1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 ・語学教育は、20名以下が理想。 ・全教科目に対応できていない。 ・留学生数の増加に伴い、対応が急務。 (2) 国際交流事業の推進 ・地域住民との交流は図られている。 ・多数の学生導入が課題。 ・国際交流事業実施状況の把握と情報共有。 (3) ボランティア活動への参加の推進 ・参加者の拡大が課題である。 ・部局間の情報共有、情報の集約部署が不明確。 ・ボランティア活動の集約ができていない。 ・短期大学部に科目設定がない </td> <td>⇒</td> <td> ・教員の確保と、教室の増設 ・留学生の入学予定者を想定した準備の実施 ・多くの留学生が参加できるように、情報提供と、環境作りを行う。 ・国際交流事業の部局間の情報共有方法等決定。 ・情報発信と学生が参加しやすい環境を作る。 ・ボランティア参加のガイドラインの構築と部局間の情報共有・情報の収集方法の決定。 ・短期大学部に「ボランティア活動」科目設置 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 ・語学教育は、20名以下が理想。 ・全教科目に対応できていない。 ・留学生数の増加に伴い、対応が急務。 (2) 国際交流事業の推進 ・地域住民との交流は図られている。 ・多数の学生導入が課題。 ・国際交流事業実施状況の把握と情報共有。 (3) ボランティア活動への参加の推進 ・参加者の拡大が課題である。 ・部局間の情報共有、情報の集約部署が不明確。 ・ボランティア活動の集約ができていない。 ・短期大学部に科目設定がない	⇒	・教員の確保と、教室の増設 ・留学生の入学予定者を想定した準備の実施 ・多くの留学生が参加できるように、情報提供と、環境作りを行う。 ・国際交流事業の部局間の情報共有方法等決定。 ・情報発信と学生が参加しやすい環境を作る。 ・ボランティア参加のガイドラインの構築と部局間の情報共有・情報の収集方法の決定。 ・短期大学部に「ボランティア活動」科目設置																																																																																													
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																																																																																		
(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 ・語学教育は、20名以下が理想。 ・全教科目に対応できていない。 ・留学生数の増加に伴い、対応が急務。 (2) 国際交流事業の推進 ・地域住民との交流は図られている。 ・多数の学生導入が課題。 ・国際交流事業実施状況の把握と情報共有。 (3) ボランティア活動への参加の推進 ・参加者の拡大が課題である。 ・部局間の情報共有、情報の集約部署が不明確。 ・ボランティア活動の集約ができていない。 ・短期大学部に科目設定がない	⇒	・教員の確保と、教室の増設 ・留学生の入学予定者を想定した準備の実施 ・多くの留学生が参加できるように、情報提供と、環境作りを行う。 ・国際交流事業の部局間の情報共有方法等決定。 ・情報発信と学生が参加しやすい環境を作る。 ・ボランティア参加のガイドラインの構築と部局間の情報共有・情報の収集方法の決定。 ・短期大学部に「ボランティア活動」科目設置																																																																																																		
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																			
どうなった？ <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① 英語教育科目履修者数</td> <td>-</td> <td>238名</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>296名</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>286名</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>② 日本語教育科目履修者数</td> <td>-</td> <td>388名</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>452名</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>560名</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 国際交流事業の推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① 事業件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>93</td> <td>15</td> <td>8</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>(3) ボランティア活動への参加の推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① グローバルスタディ参加者数</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>100</td> <td>30</td> <td>28</td> <td>93</td> <td>30</td> <td>28</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>② ボランティア活動参加者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>76</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>53</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進										① 英語教育科目履修者数	-	238名	-	-	296名	-	-	286名	-	② 日本語教育科目履修者数	-	388名	-	-	452名	-	-	560名	-	(2) 国際交流事業の推進										① 事業件数	-	-	-	15	14	93	15	8	53	(3) ボランティア活動への参加の推進										① グローバルスタディ参加者数	30	30	100	30	28	93	30	28	93	② ボランティア活動参加者数	-	-	-	-	76	-	-	53	-	改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ (1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進 [国際地域学部・国際人間科学部] ・英語教育：1年生オーラルコミュニケーション、15名程度習熟度別クラスにて開講。 (週5日、ネイティブ講師による講義4回、日本人講師による講義1回) 2・3年生は、90分を週2回、習熟度別クラスにて開講。目標：TOEIC受験増 ・日本語教育：20名以下習熟度別クラスにて開講。作文、文法、講義各2単位開講。日本語能力の低い学生にはさらに2単位分補講開講。目標：日本語能力試験1・2級合格増 (2) 国際交流事業の推進 4月 (COC・国際交流センター) 年間計画の立案および情報発信の実施。 前期・後期 (教務・学生支援課) グローバルスタディーを県内教育機関・団体等へ告知。 ・50件を目指す。 (3) ボランティア活動への参加の推進 随時 (総務課) ボランティア募集の告知と参加学生の把握 随時 (総務課) 報告と、ホームページへの情報発信の実施 ※教務・学生支援課と連携
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																												
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																											
(1) 英語教育、日本語教育に特化した事業の推進																																																																																																				
① 英語教育科目履修者数	-	238名	-	-	296名	-	-	286名	-																																																																																											
② 日本語教育科目履修者数	-	388名	-	-	452名	-	-	560名	-																																																																																											
(2) 国際交流事業の推進																																																																																																				
① 事業件数	-	-	-	15	14	93	15	8	53																																																																																											
(3) ボランティア活動への参加の推進																																																																																																				
① グローバルスタディ参加者数	30	30	100	30	28	93	30	28	93																																																																																											
② ボランティア活動参加者数	-	-	-	-	76	-	-	53	-																																																																																											

次年度へ

Ⅲ教育力	実施項目	2. 在学生の満足度	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 学生満足度調査の実施・(2) 授業評価アンケートの実施・(3) 懇談会の開催	担当部署	教務・学生支援部
			改定日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																																																																									
結果から見えてくることは？ (1) 学生満足度調査の実施 - 平成28・29年度とも、学生満足度調査による結果は、おおむね良好であった。 ※平成28年度 I R 推進部会により実施された学生満足度調査の結果は、次のとおり。 「満足している」「やや満足している」 ⇒国際人間科学部71.5%・短期大学部 79.9%・留学生81.2% ※平成29年度 I R 推進部会により実施された学生満足度調査の結果は、次のとおり。 「満足している」「やや満足している」 ⇒国際人間科学部74%・こども教育学部100%・短期大学部 80%・留学生83% (2) 授業評価アンケートの実施 - 各学期授業の14回目あるいは15回目に、学生による授業評価アンケートを実施した。 - 週1回開講かつ15回開講科目について実施した。 (3) 懇談会の開催 - 平成29年度より、学生会と理事長・学長との懇談会を複数回開催し、学生からの意見を聞くことができた。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td>(1) 学生満足度調査の実施</td> <td></td> <td> - 毎年実施している。 ※平成28年度のアンケートでの、学生からの要望事項は、次のとおり。 ・スクールバス・食堂・教室環境 </td> </tr> <tr> <td>(2) 授業評価アンケートの実施</td> <td></td> <td> ・集中講義と7.5回開講科目については、実施していない。 ・授業科目の開講時期の把握をする。 ・すべての科目について実施する。 </td> </tr> <tr> <td>(3) 懇談会の開催</td> <td></td> <td> ・より多くの意見交換の機会を持つ。 ・懇談会を、前期と後期に複数回開催する。 ・意見交換会を適宜開催する。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	(1) 学生満足度調査の実施		- 毎年実施している。 ※平成28年度のアンケートでの、学生からの要望事項は、次のとおり。 ・スクールバス・食堂・教室環境	(2) 授業評価アンケートの実施		・集中講義と7.5回開講科目については、実施していない。 ・授業科目の開講時期の把握をする。 ・すべての科目について実施する。	(3) 懇談会の開催		・より多くの意見交換の機会を持つ。 ・懇談会を、前期と後期に複数回開催する。 ・意見交換会を適宜開催する。																																																																													
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																																																																								
(1) 学生満足度調査の実施		- 毎年実施している。 ※平成28年度のアンケートでの、学生からの要望事項は、次のとおり。 ・スクールバス・食堂・教室環境																																																																																								
(2) 授業評価アンケートの実施		・集中講義と7.5回開講科目については、実施していない。 ・授業科目の開講時期の把握をする。 ・すべての科目について実施する。																																																																																								
(3) 懇談会の開催		・より多くの意見交換の機会を持つ。 ・懇談会を、前期と後期に複数回開催する。 ・意見交換会を適宜開催する。																																																																																								
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																									
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>(1) 学生満足度調査の実施</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 満足度率 (大学)</td> <td>100</td> <td>71.5</td> <td>71.5</td> <td>100</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 満足度率 (短大)</td> <td>100</td> <td>79.9</td> <td>79.9</td> <td>100</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 授業評価アンケートの実施</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 授業評価率</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>(3) 懇談会の開催</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 開催回数</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	(1) 学生満足度調査の実施										① 満足度率 (大学)	100	71.5	71.5	100	74	74	100			② 満足度率 (短大)	100	79.9	79.9	100	80	80	100			(2) 授業評価アンケートの実施										① 授業評価率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	(3) 懇談会の開催										① 開催回数	-	0	-	-	2	-	-	2	-	改善策を、誰が？いつまでに？何を？どうやって？どうなる予定？ (1) 学生満足度調査の実施 (教務・学生支援部との連携) 7月まで (I R 推進部会) 全学生対象の調査の実施。 8月末まで (I R 推進部会) 結果の集計および報告。 3月 (I R 推進部会) 卒業予定者対象の調査・集計分析 (2) 授業評価アンケートの実施 (教務・学生支援部との連携) (F D・S D 部会) ポータルサイトによるアンケートの実施。 (3) 懇談会の開催 - 懇談会 年2回 (6月・12月) - 意見交換会 年2回 (7月・1月) [短期大学部] 年4回 個人面談でニーズの聞き取りを実施。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																		
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																	
(1) 学生満足度調査の実施																																																																																										
① 満足度率 (大学)	100	71.5	71.5	100	74	74	100																																																																																			
② 満足度率 (短大)	100	79.9	79.9	100	80	80	100																																																																																			
(2) 授業評価アンケートの実施																																																																																										
① 授業評価率	100	100	100	100	100	100	100	100	100																																																																																	
(3) 懇談会の開催																																																																																										
① 開催回数	-	0	-	-	2	-	-	2	-																																																																																	

次年度へ

Ⅲ教育力	実施項目	3. 高大接続による単位認定制度の確立	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 高大接続協定校の拡充・(2) 高大接続協定校との事業推進	担当部署	教務・学生支援部
			改定日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																																											
結果から見えてくることは？ (1) 高大接続協定校の拡充 ＜高大接続による協定書の締結＞ ・平成22年4月に鈴鹿高等学校と大学間 ・平成26年10月に久居高等学校と鈴鹿短期大学間 ・平成30年4月に四日市工業高等学校と鈴鹿大学間 ・平成30年度は四日市工業高等学校の生徒が本学の授業科目を履修し、単位を修得した。 (2) 高大接続協定校との事業推進 - 四日市工業高等学校生徒11人が前期「ビジネス英語Ⅰ」「TOEICの英語Ⅰ」を履修した。 - 後期は「ビジネス英語Ⅱ」「TOEICの英語Ⅱ」を履修中である。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td>(1) 高大接続協定校の拡充</td> <td></td> <td> ・本学の魅力を発信し、協定校獲得を行う。 ・入学者多数の高等学校への働きかけを行う。 </td> </tr> <tr> <td>(2) 高大接続協定校との事業推進</td> <td></td> <td> ・他の大学にはない本学の魅力を発信。 ・高等学校に協定への働きかけを行う。 ・特に入学者の多い高等学校への積極的発信。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	(1) 高大接続協定校の拡充		・本学の魅力を発信し、協定校獲得を行う。 ・入学者多数の高等学校への働きかけを行う。	(2) 高大接続協定校との事業推進		・他の大学にはない本学の魅力を発信。 ・高等学校に協定への働きかけを行う。 ・特に入学者の多い高等学校への積極的発信。																																																		
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																																										
(1) 高大接続協定校の拡充		・本学の魅力を発信し、協定校獲得を行う。 ・入学者多数の高等学校への働きかけを行う。																																																										
(2) 高大接続協定校との事業推進		・他の大学にはない本学の魅力を発信。 ・高等学校に協定への働きかけを行う。 ・特に入学者の多い高等学校への積極的発信。																																																										
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																											
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>(1) 高大接続協定校の拡充</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 協定校総数</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 高大接続協定校との事業推進</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>① 特別聴講生履修者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>-</td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	(1) 高大接続協定校の拡充										① 協定校総数	-	2	-	-	2	-	-	4	-	(2) 高大接続協定校との事業推進										① 特別聴講生履修者数	-	-	-	-	-	-	-	11	-	改善策を、誰が？いつまでに？何を？どうやって？どうなる予定？ (1) 高大接続協定校の拡充 12月末まで (教務・学生支援部) 魅力ある教学プログラムの作成、提案 ※各学部、学科と連携 (入試広報キャリア部) 魅力発信、指定校拡充 (2) 高大接続協定校との事業推進 12月末まで (教務・学生支援部) 魅力ある教学プログラムの作成、提案 ※各学部、学科と連携 (入試広報キャリア部) 魅力発信、指定校拡充 [短期大学部] - 年1回 鈴鹿高等学校と高大接続プログラム実施。 - 年1回 久居農林高等学校生徒への栄養学を含む調理実習を実施。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																				
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																			
(1) 高大接続協定校の拡充																																																												
① 協定校総数	-	2	-	-	2	-	-	4	-																																																			
(2) 高大接続協定校との事業推進																																																												
① 特別聴講生履修者数	-	-	-	-	-	-	-	11	-																																																			

次年度へ

Ⅲ教育力	実施項目	4. 研究に裏付けられた専門教育の提供	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 科研費採択率	担当部署	教務・学生支援部
		改定日	作成日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																													
結果から見えてくることは？ 研究代表者としてまたは分担者として採択された件数は、以下のとおり。 ・平成28年度 ⇒ 国際人間科学部 代表者1件 分担者1件 短期大学部 分担者2件 ・平成29年度 ⇒ 国際人間科学部 代表者2件 分担者3件 短期大学部 分担者3件 ・平成30年度 ⇒ 国際人間科学部 代表者1件 分担者1件 こども教育学部 代表者2件 分担者1件 短期大学部 分担者3件 毎年2学部1学科にわたり、科研費の獲得がされた。 過去3年間の獲得経費は、直接経費で8,066,700円であった。 受託事業補助金は、3年間で12件、11,261,574円であった。	課題 (何が問題?) ⇒ 改善策 (どうしたらいい?) ・質の高い研究の実施。 ・科研費の採択をさらに増やす試みの実施。 ・科研費以外の外部研究費の獲得。 ・外部研究者との共同研究は科研費受託。 ・(代表、分担とも) の促進につながる理解。 ・採択数を増やす。 ・申請書の作成方法の勉強会実施。 ・採択されやすい分野の研究実施。 ・科研費以外の各種研究助成金情報を収集・周知。 ・外部研究者との共同研究が進めやすいような施設利用や研究発表などの支援。																													
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																													
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 採択件数</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① 採択件数	-	4	-	-	10	-	-	7	-	改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? [全体] 年6回 (FD・SD部会) 研修会の実施。 ・科研費採択者および学外講師からのアドバイス ・申請のための勉強会の実施 (4月・5月・6月・7月・9月・10月に1回) [大学院] 年3回 (大学院) 学内研究会の実施。 ※大学院研究科長中心に検討。 [短期大学部] 年1回 (食物栄養学専攻) 健康教育を柱とした研究実施。 ※公開講座にて「減塩支援プログラム」実施 (6月・8月・11月・1月に実施)
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																						
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																					
① 採択件数	-	4	-	-	10	-	-	7	-																					

次年度へ

Ⅲ教育力	実施項目	5. 職場で役立つ資格取得の支援	対象年度	平成30年度を振り返る
	活動内容	(1) 資格取得に向けた学修支援	担当部署	教務・学生支援部
		改定日	作成日	平成31年3月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載	A (課題、改善策)																																																																																																																																																					
結果から見えてくることは？ <国際人間科学部> ・組織的に推奨し、資格取得に取り組む体制になっていない。 <短期大学部> ・資格取得を目的とする短期大学部では、主となる資格取得が好成績である。 (栄養士資格・保育士資格取得90%以上、幼稚園教諭2種免許80%以上)	課題 (何が問題?) ⇒ 改善策 (どうしたらいい?) <短期大学部> ・主となる資格取得率は、好成績であるが 引き続きの支援が必要。 ・他の資格取得への支援が必要。 ・資格取得への更なる支援を行う。 ・他の資格については、情報発信を行う。 ・キャリアデザインとの関連を指導する。 ・合格への支援を行う。																																																																																																																																																					
D (行動、結果)	P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載																																																																																																																																																					
どうなった? <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① TOEIC700点以上達成者数</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>② 日本語レベルN1合格者数</td> <td>-</td> <td>14</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>③ 英語検定準1級合格者数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>④ ビジネス会計検定3級合格者数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑤ 行・マ・タ・ラ・ン・グ検定3級合格者数</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>14</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑥ 栄養士資格取得者数</td> <td>36</td> <td>35</td> <td>97</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>92</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>⑦ 保育士資格取得者数</td> <td>75</td> <td>71</td> <td>94</td> <td>62</td> <td>59</td> <td>95</td> <td>34</td> <td>32</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>⑧ 栄養教諭2種免許取得者数</td> <td>36</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>41</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>⑨ 幼稚園教諭2種免許取得者数</td> <td>75</td> <td>66</td> <td>88</td> <td>62</td> <td>58</td> <td>93</td> <td>34</td> <td>29</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>⑩ 養護教諭2種免許取得者数</td> <td>26</td> <td>10</td> <td>38</td> <td>26</td> <td>19</td> <td>73</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑪ 音楽療法士2種資格取得者数</td> <td>-</td> <td>21</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑫ 教員後援会支援員資格取得者数</td> <td>-</td> <td>16</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑬ トラ・ラン・グ・タ・ラ・ン・グ資格取得者数</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① TOEIC700点以上達成者数	-	7	-	-	5	-	-	3	-	② 日本語レベルN1合格者数	-	14	-	-	12	-	-	5	-	③ 英語検定準1級合格者数	-	1	-	-	2	-	-	0	-	④ ビジネス会計検定3級合格者数	-	1	-	-	0	-	-	0	-	⑤ 行・マ・タ・ラ・ン・グ検定3級合格者数	-	4	-	-	0	-	-	14	-	⑥ 栄養士資格取得者数	36	35	97	40	37	92	41	40	98	⑦ 保育士資格取得者数	75	71	94	62	59	95	34	32	94	⑧ 栄養教諭2種免許取得者数	36	3	8	40	5	12	41	4	10	⑨ 幼稚園教諭2種免許取得者数	75	66	88	62	58	93	34	29	85	⑩ 養護教諭2種免許取得者数	26	10	38	26	19	73	-	-	-	⑪ 音楽療法士2種資格取得者数	-	21	-	-	7	-	-	8	-	⑫ 教員後援会支援員資格取得者数	-	16	-	-	22	-	-	6	-	⑬ トラ・ラン・グ・タ・ラ・ン・グ資格取得者数	-	4	-	-	2	-	-	2	-	改善策を、誰が? いつまでに? 何を? どうやって? どうなる予定? [教務・学生支援部] ⑥から⑩までの資格 各学部、学科との連携・情報共有によるサポートを行う (欠席数の把握：学期開始1ヶ月以内、単位修得状況の把握：学期末)。 次年度に向けた指導の具体策の立案を行う(12月まで)。 [入試広報キャリア部] その他の資格 各学部、学科との連携によるサポートを行う(講座開講毎に対応する)。 次年度に向けた指導の具体策の立案を行う(12月まで)。 [各学部、学科] 個人面談により資格取得についての聞き取りを実施する (各学期開始、終了時)。 [教務・学生支援課] 各学部、学科の聞き取り調査を集約する (各学期開始、終了時)。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																																																																														
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																																																																													
① TOEIC700点以上達成者数	-	7	-	-	5	-	-	3	-																																																																																																																																													
② 日本語レベルN1合格者数	-	14	-	-	12	-	-	5	-																																																																																																																																													
③ 英語検定準1級合格者数	-	1	-	-	2	-	-	0	-																																																																																																																																													
④ ビジネス会計検定3級合格者数	-	1	-	-	0	-	-	0	-																																																																																																																																													
⑤ 行・マ・タ・ラ・ン・グ検定3級合格者数	-	4	-	-	0	-	-	14	-																																																																																																																																													
⑥ 栄養士資格取得者数	36	35	97	40	37	92	41	40	98																																																																																																																																													
⑦ 保育士資格取得者数	75	71	94	62	59	95	34	32	94																																																																																																																																													
⑧ 栄養教諭2種免許取得者数	36	3	8	40	5	12	41	4	10																																																																																																																																													
⑨ 幼稚園教諭2種免許取得者数	75	66	88	62	58	93	34	29	85																																																																																																																																													
⑩ 養護教諭2種免許取得者数	26	10	38	26	19	73	-	-	-																																																																																																																																													
⑪ 音楽療法士2種資格取得者数	-	21	-	-	7	-	-	8	-																																																																																																																																													
⑫ 教員後援会支援員資格取得者数	-	16	-	-	22	-	-	6	-																																																																																																																																													
⑬ トラ・ラン・グ・タ・ラ・ン・グ資格取得者数	-	4	-	-	2	-	-	2	-																																																																																																																																													

次年度へ

Ⅲ教育力

実施項目 6. 社会の変化に対応した学部・学科改組

活動内容 (1) 新学部の設置・(2) 収容定員の変更・(3) 入学定員の変更

対象年度 平成30年度を振り返る

担当部署 教務・学生支援部

改定日

作成日

平成31年8月8日

C (振り返り、検証) ※事業報告書に記載

A (課題、改善策)

結果から見えてくることは？

(1) 新学部の設置

<鈴鹿大学>

- 「こども教育学部」平成27年度より準備開始。予定どおり、平成29年度に新設を実現した。
- 「こども教育学部」平成30年度は、完成年度に合わせて、小学校教員養成課程導入検討開始。
- 「国際地域学部」平成28年度より準備開始。改組申請を行い、平成30年10月現在、開設準備中。

<鈴鹿大学短大大学部>

- 「生活コミュニケーション学専攻」を、大学への移行により平成28年度に募集停止。
- 「専攻科」を、平成30年度をもって、募集停止する。
- 「短大大学部」平成30年度は、将来計画を検討中である。

(2) 収容定員の変更

- 鈴鹿大学全体の収容定員は、平成28年度から平成30年度は、970人、850人、800人と減少。（大学院・専攻科・編入を含む）

(3) 入学定員の変更

- 鈴鹿大学全体の入学定員は、平成28年度から平成30年度は、270人であり、変化がなかった。大学院・専攻科を含むと290人である。

課題（何が問題？）

改善策（どうしたらいい？）

(1) 新学部の設置

<鈴鹿大学>

- 国際人間科学部とこども教育学部の将来計画に2年の時間差がある。
- 円滑な改革の障がいとなっている。

<短大大学部>

- 教養改革と学科名称変更の検討が急務。

- 改革立案時期を早期化する。
- 十分な検討期間を確保する。
- 具体的な学部・学科改組は、4年前から検討を開始する。

<新たな取組へ>

- 公開講座、授業公開、履修証明プログラムなど、官学連携協議を通じた地域ニーズの検討

(2) 収容定員の変更

- 大学として健全な教養組織を保つために、入学定員300人、収容定員1,000人以上必要。

- 「こども教育学部」は、完成年度を目指し、平成33年度からの学部改組を計画する。小学校教員養成新設により入学定員を増やし、収容定員の増数を図る。

(3) 入学定員の変更

- 平成31年度は、入学定員270名→280名となり、10名（4年間で40名）減数となる。

D (行動、結果)

P (平成31年度実行計画) ※事業計画書に記載

どうなった？

改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？

(1) 新学部の設置・(2) 収容定員の変更・(3) 入学定員の変更

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
国際人間科学部	設置	定員100名	募集停止	完成								
国際地域学部				設置	定員120名	完成						
こども教育学部			設置	定員80名	定員50名							
大学院												
短大大学部												
専攻科												

こども教育学部は開設完成年度後の小学校教員養成課程の開設計画を推進する

- （完成年度後の平成33年度の開設を目指す）。
- 基礎教育科目の実務教育科目について、全学での統一した指導体制をとる（4月より開始）。
- 基礎教育科目について、国際地域学部とこども教育学部、短大大学部の合同開講実施（社会学、こころの癒しと音楽他）（4月より開始）。
- 短大大学部は、平成32年度改組に向け、改革案を提出する（8月）。
- 公開講座、授業公開、履修証明プログラムなどを提供し、地域ニーズをつかむ（10月までに次年度計画を提出する）。

次年度へ

Ⅳ就職力

実施項目	1. 就職率100%の達成とその継続	対象年度	平成29年度～平成30年度
活動内容	(1)就職率の向上	担当部署	入試広報キャリア部
		改定日	作成日 平成30年11月1日

C（振り返り、検証）

結果から見えてくることは？

（活動実施内容）

- ①個別指導を中心とした指導を徹底に行った。
- ②進路が決定するまで継続して指導を行った。
- ③ゼミ担当教員と情報共有し連携した進路指導を行った。
- ④就職対象企業の担当者との連携により内定獲得に繋がった。
- ⑤関係機関との関係強化し情報収集を行った。
- ⑥留学生対象とした学内説明会を開催し選考に繋がった。

（評価）

- ①短期大学部は、前年度に続き2年連続、進路決定率100%達成。
- ②ゼミ担当教員と情報共有し、進路指導を継続的に実施。より希望に沿った進路を決定することが出来た。

D（行動、結果）

どうなった？

評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率
鈴鹿大学									
①一般学生就職内定率	100	97	97%	100	97	97%	100	61	61%
②留学生就職内定率	100	100	100%	100	81	81%	100	55	55%
短期大学部									
①進路決定率	100	100	100%	100	100	100%	100	63.2	63%

A（課題、改善策）

課題（何が問題？）

改善策（どうしたらいい？）

- ①就職に関心の低い学生の割合が増加。
職業感の醸成が今後更に必要となる。
- ②留学生への就職支援も一般学生同様に実施。
留学生はビザの関係もあり難しい。
就職をさせるための企業開拓が必要である。
- ③内定を受けていても、卒業判定で卒業不可となる学生が今年度もいたため、
企業へお詫びの訪問を行った。
- ①留学生の就職に繋げるためには、
関係機関との連携を更に行う。
特に、名古屋外国人雇用サービスセンターとの連携を深める。

P（実行計画）

改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？

- (1) 留学生就職率向上に向けての取り組み（入試広報キャリア部）
①留学生採用予定の企業情報が得られれば、担当者から企業に詳しい求人内容を確認し、学生への情報提供を行う。
②求人情報を留学生メールボックスに投函し学生に周知する。
③個別指導として担当者より未内定学生に電話でも連絡を行い、挑戦を勧める。
④学内での説明会が可能であれば企業に依頼し、学内企業説明会開催に向け企業と打合せを行う。
- (2) 一般学生就職率向上に向けての取り組み（入試広報キャリア部）
①未内定学生については個別面談を重ね、出来る限り本人の希望に添えるような業種・職種への就職出来るまで支援を続ける。
②学内求人検索サイト(Jネット)を活用し具体的に企業検索を行い、エントリーを行なうとこまで指導する。
③内定獲得まで個別指導を継続して行う。
- (3) 就職支援プログラムのSUZUKA-TRY PROGRAMを推進を全学あげて取り組みを行なう。（入試広報キャリア部）

次年度へ

IV就職力	実施項目	1. 就職率100%の達成とその継続	対象年度	平成29年度～平成30年度
	活動内容	(2) キャリアデザイン講座の充実	担当部署	入試広報キャリア部
		改定日	作成日	平成30年11月1日

C (振り返り、検証)	A (課題、改善策)																																							
結果から見えてくることは？ (活動実施内容) ① 国際学科3年生を対象として開講し、学生のキャリア形成に努めた。 ② ゲストスピーカーを招いての講和等を実施し、社会に出るための意識を高めることに努めた。 ③ 外部講師により論理的に文章を書くための指導を行った。 (評価) ① 授業は選択科目ではあるが、卒業し社会人となるための準備講座でもあり、受講は全員受講を目標としている。 平成30年度は、48%と履修率が低かったのは大きな問題であると認識している。 ② 受講生の受講態度は比較的良好だった。 ③ 学生による授業評価での授業満足度は4.4であり、学内平均より高い数字となっている。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> ① 授業への履修者登録率が平成30年度は48%と非常に低い状況。 <在籍者内訳> 116名：一般学生 37/49 留学生 20/57 ⇒ 過去最低の履修登録率 履修者登録率を上げる方策必須。 特に留学生の履修登録が低い。 ② 更なる内容の充実が必要である。 </td> <td>⇒</td> <td> ① 2年次初年次セミナーにおいて、ゼミ担当教員より、受講の案内を依頼。受講増加に繋がっていない。 更に連携を深めて受講の案内を行う。 ② 早い時期から学生とキャリア関係での繋がりを持つ機会を増やす。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	① 授業への履修者登録率が平成30年度は48%と非常に低い状況。 <在籍者内訳> 116名：一般学生 37/49 留学生 20/57 ⇒ 過去最低の履修登録率 履修者登録率を上げる方策必須。 特に留学生の履修登録が低い。 ② 更なる内容の充実が必要である。	⇒	① 2年次初年次セミナーにおいて、ゼミ担当教員より、受講の案内を依頼。受講増加に繋がっていない。 更に連携を深めて受講の案内を行う。 ② 早い時期から学生とキャリア関係での繋がりを持つ機会を増やす。																																	
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																						
① 授業への履修者登録率が平成30年度は48%と非常に低い状況。 <在籍者内訳> 116名：一般学生 37/49 留学生 20/57 ⇒ 過去最低の履修登録率 履修者登録率を上げる方策必須。 特に留学生の履修登録が低い。 ② 更なる内容の充実が必要である。	⇒	① 2年次初年次セミナーにおいて、ゼミ担当教員より、受講の案内を依頼。受講増加に繋がっていない。 更に連携を深めて受講の案内を行う。 ② 早い時期から学生とキャリア関係での繋がりを持つ機会を増やす。																																						
D (行動、結果)	P (実行計画)																																							
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学 (履修者/3年在籍者)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>90</td> <td>64</td> <td>71%</td> <td>80</td> <td>55</td> <td>69%</td> <td>116</td> <td>57</td> <td>49%</td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	鈴鹿大学 (履修者/3年在籍者)										受講者数	90	64	71%	80	55	69%	116	57	49%	改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ (1) キャリアデザイン受講率の向上 ① 3年次キャリアデザイン授業の受講案内を、2年次の初年次セミナーⅡで行ない受講を勧める。 ② キャリアデザインの必要性を十分説明するための工夫をおこなう。 ↓ ③ 2年生担当教員と連携をとり、学生へ受講を勧める。 (2) 留学生の入学者が増えていることもあり、平成31年度は授業構成内容を検討する。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																															
鈴鹿大学 (履修者/3年在籍者)																																								
受講者数	90	64	71%	80	55	69%	116	57	49%																															

次年度へ

IV就職力	実施項目	2. 人口減少対策としての県内での就職率強化	対象年度	平成29年度～平成30年度
	活動内容	(1) 県内就職支援の充実	担当部署	入試広報キャリア部
		改定日	作成日	平成30年11月1日

C (振り返り、検証)	A (課題、改善策)																																																	
結果から見えてくることは？ (活動実施内容) ① 各市商工会議所と連携を図った。 合同企業説明会への参加を学生に促した。 選考に進む機会の場を提供した。 ② 三重県中小企業同友会との連携を行った。 地元企業情報の提供を受けて就職内定に繋がった。 (評価) ① 短期大学部は、入学学生の大半が三重県内出身者。 卒業後も地元に残り就職を希望する学生が殆どである。 県内内定率は高くなっている。 ② 大学は、留学生と強化クラブ学生が大半が三重県外出身者。 三重県内就職率は50%と低い。 留学生は、三重県内での就職を希望する留学生もいる。 前年度比で18.9%増えた。	<table border="1"> <tr> <td>課題 (何が問題?)</td> <td>⇒</td> <td>改善策 (どうしたらいい?)</td> </tr> <tr> <td> ① 短期大学部の殆どが地元での就職を希望。 学んだ資格を活かしての就職をしていない。 一般企業への就職をする学生も一部いる。 ② 留学生が就職をするため、ビザ変更申請が許可される企業が三重県内には限られている。 三重県内での就職率を上げるのは難しい。 </td> <td>⇒</td> <td> ① 短期大学部は、学んだ資格を活かし、栄養士や保育士・幼稚園教諭への進路へ進むためのサポートを、1年次から行う。 ② 大学においては、三重労働局等とも連携をとり、留学生が三重県内で就職できるような企業を開拓する。 三重県内での就職率を向上させていく。 ③ 三重大が幹事を勤めるCOC+事業で、三重県内就職率向上に、各大学が取り組みをしている。協力をして事業を進めていく。 </td> </tr> </table>	課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)	① 短期大学部の殆どが地元での就職を希望。 学んだ資格を活かしての就職をしていない。 一般企業への就職をする学生も一部いる。 ② 留学生が就職をするため、ビザ変更申請が許可される企業が三重県内には限られている。 三重県内での就職率を上げるのは難しい。	⇒	① 短期大学部は、学んだ資格を活かし、栄養士や保育士・幼稚園教諭への進路へ進むためのサポートを、1年次から行う。 ② 大学においては、三重労働局等とも連携をとり、留学生が三重県内で就職できるような企業を開拓する。 三重県内での就職率を向上させていく。 ③ 三重大が幹事を勤めるCOC+事業で、三重県内就職率向上に、各大学が取り組みをしている。協力をして事業を進めていく。																																											
課題 (何が問題?)	⇒	改善策 (どうしたらいい?)																																																
① 短期大学部の殆どが地元での就職を希望。 学んだ資格を活かしての就職をしていない。 一般企業への就職をする学生も一部いる。 ② 留学生が就職をするため、ビザ変更申請が許可される企業が三重県内には限られている。 三重県内での就職率を上げるのは難しい。	⇒	① 短期大学部は、学んだ資格を活かし、栄養士や保育士・幼稚園教諭への進路へ進むためのサポートを、1年次から行う。 ② 大学においては、三重労働局等とも連携をとり、留学生が三重県内で就職できるような企業を開拓する。 三重県内での就職率を向上させていく。 ③ 三重大が幹事を勤めるCOC+事業で、三重県内就職率向上に、各大学が取り組みをしている。協力をして事業を進めていく。																																																
D (行動、結果)	P (実行計画)																																																	
どうなった？ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>県内就職者率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>64%</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>102%</td> <td>50</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>95</td> <td>94</td> <td>99%</td> <td>95</td> <td>94</td> <td>99%</td> <td>94</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	県内就職者率										鈴鹿大学	50	32	64%	50	51	102%	50			短期大学部	95	94	99%	95	94	99%	94			改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ (1) 短期大学部の県内就職率は現状の94%がほぼ限度であると考えるので、これ以上の向上は難しい。 (2) 資格を活かして栄養士・保育士・幼稚園教諭等への就職サポート強化。 ① 学問的な問題でもあり、授業や実習を通して職業の魅力や卒業後の進路選択へつなげる。 ↓ ② 担当教員とも進路状況の情報を共有し、打合せを行う。 ③ 就職対象となる関係先と平素から良好な関係を構築するため、教職員による定期的な訪問を行う。 (3) 大学の県内就職率の向上 ① 留学生が多くなっていることもあり、県内での就職率を向上するには更なる企業開拓を行う。 ② ハローワーク等の関係機関と情報交換を密に行う。 ↓ ③ ハローワークと定期的に情報交換を行う。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																										
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																									
県内就職者率																																																		
鈴鹿大学	50	32	64%	50	51	102%	50																																											
短期大学部	95	94	99%	95	94	99%	94																																											

次年度へ

IV就職力	実施項目	3. 1年生からの全員参加するインターンシップや実習の実施	対象年度	平成29年度～平成30年度
	活動内容	(1) キャリア教育の支援	担当部署	入試広報キャリア部
			改定日	平成30年11月1日

C (振り返り、検証)	A (課題、改善策)																																																																																									
結果から見えてくることは？ (活動実施内容) ① 初年次セミナーにおいて、キャリア教育への支援としての連携を行った。 (評価) ① 大学の平成29年度は、1年生のインターンシップへの取り組みは出来なかった。 ② 短期大学部は、インターンシップと自主実習への参加が、入試広報キャリア課主導で実施。 教員との連携強化で研修先への訪問も行われた。	課題 (何が問題?) → 改善策 (どうしたらいい?) ① 大学の初年次セミナーにおける、キャリア関係の連携を行わないとインターンシップの取り組みも十分行えないことが明らかになった。 ② 留学生は夏季休暇中はアルバイトを集中して、短期大学部は引続き教員との連携をしていることもあり、長期でのインターンシップは深めていく。 は難しい。 ③ 短期大学部は授業としての実習は両専攻とも行なわれている。こども学専攻は自主実習として保育園や幼稚園へ行くが、食物栄養学専攻は自主実習の代わりにインターンシップとして実施し																																																																																									
D (行動、結果)	P (実行計画)																																																																																									
どうなった？ <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① インターンシップ参加者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学・国際1年</td> <td>117</td> <td>21</td> <td>18%</td> <td>115</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td>129</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学・国際3・4年</td> <td>20</td> <td>6</td> <td>30%</td> <td>20</td> <td>8</td> <td>40%</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短大・食物栄養1年</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>80%</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>100%</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 実習参加者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短大・食物栄養学</td> <td>-</td> <td>42</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>43</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短大・こども学</td> <td>-</td> <td>323</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>220</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	① インターンシップ参加者数										大学・国際1年	117	21	18%	115	0	0%	129			大学・国際3・4年	20	6	30%	20	8	40%	20			短大・食物栄養1年	30	24	80%	30	30	100%	30			② 実習参加者数										短大・食物栄養学	-	42	-	-	43	-	-			短大・こども学	-	323	-	-	220	-	-			改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ (1) 大学でのインターンシップ推進について ① 学生時代に力を入れて取り組んだこととして、インターンシップを取り上げる学生が多くなることをふまえ、今後はキャリアガイダンス受講者だけでなく、広く案内をする。 ↓ ② 3年ゼミ担当教員とも連携を行い、周知を行なう。 ③ 長期で参加が難しい学生については、情報社主催の短期でのインターンシップの参加を勧める。 ④ インターンシップ研修先の開拓を行なうため、関係機関との情報交換にも力を入れる。 (2) 短期大学部のインターンシップ推進について ① キャリアデザイン授業において食物栄養学専攻の学生を対象に案内し、申込を行いマッチング作業を行なう。 ↓ ② マッチング後教員へ報告し連携して研修先への訪問も行なう。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																																																																		
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																																																																	
① インターンシップ参加者数																																																																																										
大学・国際1年	117	21	18%	115	0	0%	129																																																																																			
大学・国際3・4年	20	6	30%	20	8	40%	20																																																																																			
短大・食物栄養1年	30	24	80%	30	30	100%	30																																																																																			
② 実習参加者数																																																																																										
短大・食物栄養学	-	42	-	-	43	-	-																																																																																			
短大・こども学	-	323	-	-	220	-	-																																																																																			

次年度へ

IV就職力	実施項目	4. 地元企業や商工会議所等との密接な連携	対象年度	平成29年度～平成30年度
	活動内容	(1) 企業・事業所への訪問・(2) 各種団体の連携協議会等への参加	担当部署	入試広報キャリア部
			改定日	平成30年11月1日

C (振り返り、検証)	A (課題、改善策)																																																	
結果から見えてくることは？ (活動実施内容) ① 就職対象先の地元企業との関係強化のため、定期的な企業訪問を行った。 ② 関係機関と連携を行うことで、合同企業説明会開催に向け積極的なかわりを持った。 (評価) ① 関係企業先へは限られた時間ではあるが、内定先企業を中心に継続的に訪問を行っていることで、採用担当者より直接求人への依頼をしていただくケースも多々あり、内定に繋がっている。	課題 (何が問題?) → 改善策 (どうしたらいい?) ① 県下で開催される合同企業説明会へ参加する学生の数が大学・短期大学部同様に減ってきている。 この件については県下どの大学も同様である。② 合同企業説明会に担当者も会場で出来る限り参加し、企業担当者との面談機会を増やす。 ② 新規先の企業開拓訪問を行う余裕がなくなった。 ③ こども教育学部の学生が就職活動を行うことになる 2019年度は新規先の開拓が必要となる。																																																	
D (行動、結果)	P (実行計画)																																																	
どうなった？ <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業訪問件数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴鹿大学</td> <td>40</td> <td>24</td> <td>60%</td> <td>40</td> <td>23</td> <td>58%</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期大学部</td> <td>70</td> <td>57</td> <td>81%</td> <td>60</td> <td>44</td> <td>73%</td> <td>60</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	企業訪問件数										鈴鹿大学	40	24	60%	40	23	58%	40			短期大学部	70	57	81%	60	44	73%	60			改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？ ① 担当職員による大学・短大内定先へのお礼訪問を3月中に行い、次年度の情報収集も行なう。 ② 県下で開催される合同企業説明会に担当者も参加し、会場での学生指導を行うと共に、企業採用担当者との面談をし、情報交換を行い学生の内定獲得に寄与する。 ③ 2019年度よりこども教育学部の学生が就職の準備活動を始めため、就職先として紹介できる関係先のリストアップ等を学部関係者と連携を取り、2019年3月中に行なう。
評価項目		平成28年度			平成29年度			平成30年度																																										
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																																									
企業訪問件数																																																		
鈴鹿大学	40	24	60%	40	23	58%	40																																											
短期大学部	70	57	81%	60	44	73%	60																																											

次年度へ

IV就職力	実施項目	5. 起業家を育てるキャリア教育の充実		対象年度	平成29年度～平成30年度	
	活動内容	(1) TSUNAGU PROJECTとの連携		担当部署	入試広報キャリア部	
				改定日	作成日	平成30年11月1日

C (振り返り、検証)

A (課題、改善策)

結果から見えてくることは？
(活動実施内容)
①キャリアデザインⅠ・Ⅱの取り組みの充実を行った。
②起業経験者の講話等聞く機会を設けた。

(評価)
①起業家を育てるための取り組みは不十分であった。

課題 (何が問題?)
⇒
改善策 (どうしたらいい?)

①本取り組みはキャリア関係の部署だけでは難しい。
①今後はTSUNAGU PROJECTとも連携を深めて、起業家を育てる取り組みを行う。

D (行動、結果)

P (実行計画)

どうなった？

評価項目	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率
職業人による講話									
鈴鹿大学	8	4	50%	6	1	17%	5		
短期大学部	10	11	110%	10	8	80%	10		

改善策を、誰が？ いつまでに？ 何を？ どうやって？ どうなる予定？

①TSUNAGU PROJECTを大学の研究と社会をつなぐ柱として、全学部学科が連携し取り組み各プロジェクトのそれぞれのMISSIONを実行していく。

②三重産業支援センターなどの関係機関とも連携し、講話等を実施し意識付けを行なう。

次年度へ

Ⅳ 収支予算の概要

(1) 事業活動収支予算書

事業活動収支計算書とは・・・

「事業活動収支計算書」は、現行の「消費収支計算書」にはない「区分経理」が導入されました。

私立学校を取り巻く経営環境の変化等により、近年「臨時的」「事業外」の収支が増加傾向にあります。現行の「消費収支計算書」では「経常的収支」「臨時的収支」の区別がないため、全体の収支は把握できましたが、それぞれの収支状況を適切に把握できないという難点がありました。事業活動収支計算書では、これらを区分し、さらに経常的な収支について「教育活動収支」「教育活動外収支」に細区分することにより、それぞれの収支状況を把握できるようにすることで、他法人との比較可能性も高まり、経営判断に役立つものとされています。

教育活動収支差額は△97,940千円、教育活動外収支差額は196千円、両方を合わせた経常収支差額は△97,744千円となる。

この結果、前年度繰越収支差額△25億96,237千円に、当年度収支差額△1億32,295千円を合わせた翌年度繰越収支差額は△27億28,532千円となる。

■事業活動収支予算書（2019年度第2回補正予算対比）

(単位：千円)

科 目	2018 補正②(㉔)	2019 当初(㉕)	差異(㉕-㉔)
A：教育活動収支差額	△ 98,138	△ 97,940	198
B：教育活動外収支差額	159	196	37
C：経常収支差額 (A+B)	△ 97,979	△ 97,744	235
D：特別収支差額	0	0	0
E：予備費	2,000	2,000	0
F：基本金組入前当年度収支差額 (C+D-E)	△ 99,979	△ 99,744	235
G：基本金組入額合計	△ 44,511	△ 32,551	11,960
H：当年度収支差額 (F-G)	△ 144,490	△ 132,295	12,195
I：前年度繰越収支差額	△ 2,620,347	△ 2,596,237	24,110
J：基本金取崩額	0	0	0
K：翌年度繰越収支差額 (H+I+J)	△ 2,764,837	△ 2,728,532	36,305

用語解説

本業である教育活動の収支バランスを判断する指標

経常的な事業活動が安定的かを判断する指標

一時的に発生する臨時的収支差額

【旧：帰属収支差額】
単年度における事業活動全体の収支差額

【旧：消費収支差額】

(2) 資金収支予算書

資金収支計算書とは・・・

資金収支計算書に加え、資金収支計算書を組み替えた「活動区分資金収支計算書」の作成が新たに義務付けられました。

現行の資金収支計算書には、別途分析を行わないと資金の動きが見えないという欠点がありました。そこで、収支をそれぞれ「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」の3つに分けて、区分ごとに学校法人の資金の流れを把握できるよう組み替えたのが「活動区分資金収支計算書」です。中でも教育活動資金収支差額からは、学校法人の基礎的資金獲得能力を知ることができ、学校が長期経営計画を策定する上で有用な情報になります。

資金収入は、前年度繰越支払資金の2億45,835千円と当年度資金収入10億16,230千円により、12億62,065千円となる。

資金支出は、12億62,065千円となり、当年度資金支出9億47,416千円を差引いた3億14,649千円が、翌年度繰越支払資金となる見込みである。

■資金収支予算書（2019年度第2回補正予算対比）

（単位：千円）

科 目	2018 補正②(㉔)	2019 当初(㉑)	差異(㉑-㉔)
前年度繰越支払資金	386,792	245,835	△ 140,957
当年度資金収入	889,120	1,016,230	127,110
資金収入の部 合計	1,275,912	1,262,065	△ 13,847
当年度資金支出	903,214	947,416	44,202
翌年度繰越支払資金(㉑)	372,698	314,649	△ 58,049
資金支出の部 合計	1,275,912	1,262,065	△ 13,847

<翌年度繰越支払資金の内訳>

前受金収入	243,600 千円	翌年度の納付金等で当年度中に入金されたもの
期末未払金	45,046 千円	当年度中に実施し、支払いが翌年度となるもの
4号基本金計上額	83,000 千円	恒常的に保持すべき資金の額
計	371,646 千円	(B)
314,649千円(A) - 371,646千円(B) = △56,997千円残高		

(1) 事業活動収支予算書

(単位：千円)

	事業活動収入の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		学生生徒等納付金	609,432	708,617	99,185	【学生生徒等納付金】 平成31年3月12日現在
教育活動収支		手数料	14,943	15,943	1,000	【手数料】入学検定料 +800千円
		寄付金	5,430	2,907	△ 2,523	【寄付金】大学25周年 △3,000千円
		経常費等補助金	169,483	161,480	△ 8,003	
		付随事業収入	7,457	7,900	443	
		雑収入	39,871	32,054	△ 7,817	【雑収入】 退職金財団交付金 △7,502千円
		教育活動収入 計 ①	846,616	928,901	82,285	
	事業活動支出の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		人件費	540,303	580,115	39,812	【人件費】 ・定期昇給・教員数増
		教育研究経費	324,834	367,427	42,593	【教育研究経費】 奨学費+39,520千円
		管理経費	79,617	79,299	△ 318	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出 計 ②	944,754	1,026,841	82,087	
		教育活動収支差額③ (①-②)	△ 98,138	△ 97,940	198	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		受取利息・配当金	603	603	0	
		その他の活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入 計 ④	603	603	0	
	事業活動支出の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		借入金等利息	444	407	△ 37	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出 計 ⑤	444	407	△ 37	
		教育活動外収支差額⑥ (④-⑤)	159	196	37	
経常収支差額 ⑦ (③+⑥)			△ 97,979	△ 97,744	235	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	0	0	0	
		特別収入 計 ⑧	0	0	0	
	事業活動支出の部	科 目	2018 補正②(③)	2019 当初(④)	差異(⑤-⑥)	
		資産処分差額	0	0	0	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出 計 ⑨	0	0	0	
		特別収支差額⑩ (⑧-⑨)	0	0	0	

(単位：千円)

科 目	2018 補正②(⑧)	2019 当初(⑨)	差異(⑨-⑧)
予備費	2,000	2,000	0
基本金組入前当年度収支差額⑪ (⑦+⑩)	△ 99,979	△ 99,744	235
基本金組入額合計 ⑫	△ 44,511	△ 32,551	11,960
当年度収支差額 ⑬ (⑪-⑫)	△ 144,490	△ 132,295	12,195
前年度繰越収支差額 ⑭	△ 2,620,347	△ 2,596,237	24,110
基本金取崩額 ⑮	0	0	0
翌年度繰越収支差額⑯ (⑬+⑭+⑮)	△ 2,764,837	△ 2,728,532	36,305

【基本金組入額】

- ・借入金返済 2,286千円
- ・施設関係 28,000千円
- ・設備関係 2,265千円

(参考)

事業活動収入の部 合計	847,219	929,504	82,285
事業活動支出の部 合計	947,198	1,029,248	82,050

<主な科目の概要>

■事業活動収入の部

【教育活動収入】

- ① 学生生徒等納付金の主な内容としては、授業料、入学金、教育充実費、実験実習料である。

鈴鹿大学国際人間科学部および国際地域学部においては、毎年入学定員を充足しており、編入学生についても増数（119名増）となっている。こども教育学部においては、入学定員未充足ではあるが、学年進行により増数（28名増）となっている。短期大学部においては、専攻科の募集停止もあり、減数（△18名減）となる。

よって、2018年度第2回補正予算より、99,185千円の増額となる見込みである。

◇予算人員

(単位：人)

所 属	第2回補正		当初予算		第2回との差異	
鈴 鹿 大 学 国際人間科学部	1 年	123	1 年	0	△ 123	※募集停止
	2 年	95	2 年	124	29	
	3 年	105	3 年	133	28	
	4 年	71	4 年	102	31	
	計	394	計	359	△ 35	
鈴 鹿 大 学 国際地域学部	1 年	0	1 年	154	154	※新設学部
	計	0	計	154	154	
鈴 鹿 大 学 大学院	1 年	9	1 年	5	△ 4	
	2 年	9	2 年	9	0	
	計	18	計	14	△ 4	
鈴 鹿 大 学 こども教育学部	1 年	24	1 年	29	5	
	2 年	17	2 年	23	6	
	3 年	—	3 年	17	17	
	計	41	計	69	28	
鈴鹿大学 合計	453		596		143	

(単位：人)

所 属	第2回補正		当初予算		第2回との差異
短期大学部 生活コミュニケーション学科	1年	78	1年	65	△ 13
	2年	77	2年	79	2
	計	155	計	144	△ 11
短期大学部 専攻科	1年	11	1年	0	△ 11
	2年	6	2年	10	4
	計	17	計	10	△ 7
短期大学部 合計	172		154		△ 18
予算人員 総合計	625		750		125

◇学生生徒等納付金

(単位：千円)

所 属	科目	第2回補正	当初予算	第2回との差異
鈴 鹿 大 学 国際人間科学部 大学院	授業料収入	231,367	201,950	△ 29,417
	入学金収入	45,910	13,800	△ 32,110
	実験実習料収入	0	0	0
	教育充実費収入	113,292	98,685	△ 14,607
	計	390,569	314,435	△ 76,134
鈴 鹿 大 学 国際地域学部	授業料収入	0	84,000	84,000
	入学金収入	0	46,200	46,200
	実験実習料収入	0	0	0
	教育充実費収入	0	40,500	40,500
	計	0	170,700	170,700
鈴 鹿 大 学 こども教育学部	授業料収入	31,125	50,250	19,125
	入学金収入	6,500	7,250	750
	実験実習料収入	1,497	2,264	767
	教育充実費収入	12,865	20,770	7,905
	計	51,987	80,534	28,547
鈴鹿大学 合 計		442,556	565,669	123,113
短期大学部 生活コミュニケーション学科 専攻科 (研究生・科目履修生含む)	授業料収入	90,190	79,318	△ 10,872
	入学金収入	22,750	16,250	△ 6,500
	実験実習料収入	8,574	7,265	△ 1,309
	教育充実費収入	45,362	40,115	△ 5,247
	計	166,876	142,948	△ 23,928
短期大学部 合 計		166,876	142,948	△ 23,928
学生生徒等納付金 総合計		609,432	708,617	99,185

- ② 手数料の主な内容は、入学検定料、試験料、証明手数料、取扱手数料、大学入試センター試験実施手数料である。

2019年度は、入学者の増数に伴い、入学検定料800千円の増額を含め、2018年度第2回補正予算より、1,000千円増額となる見込みである。

- ③ 寄付金の主な内容は、特別寄付金、一般寄付金、現物寄付金である。

2019年度は、大学25周年事業寄付金3,000千円の減額を含め、2018年度第2回補正予算より、△2,523千円増額となる見込みである。

- ④ 経常費補助金の主な内容は、国庫補助金、地方公共団体補助金となる。

2019年度は、次の表のとおり、2018年度第2回補正予算より、△8,003千円の減額となる見込みである。

◇補助金収入

(単位：千円)

所 属	第2回補正	当初予算	第2回との差異	28実績	29実績
国際人間科学部	87,116	84,414	△ 2,702	117,366	86,137
こども教育学部	19,486	19,256	△ 230	—	13,516
短期大学部	62,881	57,810	△ 5,071	119,394	69,315
合 計	169,483	161,480	△ 8,003	236,760	168,968

- ⑤ 付随事業収入の主な内容は、公開講座収入、その他の講座収入、受託事業収入である。

受託事業収入には、短期大学部への教育委託訓練生の委託金が含まれており、2018年度から食物栄養学専攻に5名を上限として受け入れが始まり、2019年度はさらにこども学専攻への5名が追加となり、併せて10名を上限として受け入れることとなった。その他講座収入は、教員免許更新講習、授業公開講座の受講料となる。公開講座収入については、講座数を厳選し、縮小する計画を立てているため減額とした。よって、2019年度は、2018年度第2回補正予算より443千円増額となる見込みである。

- ⑥ 雑収入の主な内容は、施設設備利用料、退職金財団等交付金、その他雑収入である。

2019年度は、2018年度第2回補正予算より、△7,817千円減額となる見込みである。

【教育活動外収入】

- ⑦ 受取利息・配当金の主な内容は、その他の受取利息・配当金である。

【特別収入】

- ⑧ 資産売却差額の主な内容は、資産を売却した際の差額である。

よって、2019年度当初予算の事業活動収入合計は、9億29,504千円となり、2018年度第2回補正予算より、82,285千円の増額となる見込みである。

- ⑨ 基本金組入額は、△32,551千円となり、すべてが第1号基本金によるものである。

■事業活動支出の部

【教育活動支出】

- ① 人件費支出の主な内容は、教員人件費、職員人件費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金である。

2019年度は、国際人間科学部および国際地域学部の留学生増数に伴う日本語教員の増員、こども教育学部の学年進行による増員、定期昇給等により、2018年度第2回補正予算より、39,812千円増額となる見込みである。

◇予算人員 (単位：人)

所 属	第2回補正					当初予算					差異
	専教	非講	専職	非職	計	専教	非講	専職	非職	計	
国際人間科学部	24	11	15	1	51	17	5	10	8	40	△ 11
国際地域学部	-	-	-	-	-	6	8	4	1	19	19
こども教育学部	12	0	1	0	13	17	14	3	2	36	23
短期大学部	16	20	12	5	53	16	15	7	5	43	△ 10
法人部門	0	0	1	1	2	0	0	1	1	2	0
合 計	52	31	29	7	119	56	42	25	17	140	21

◇人件費支出 (単位：千円)

所 属	第2回補正	当初予算	第2回との差異
国際人間科学部	246,857	201,332	△ 45,525
国際地域学部	0	81,725	81,725
こども教育学部	124,123	122,285	△ 1,838
短期大学部	131,614	135,142	3,528
法人部門	37,709	39,631	1,922
合 計	540,303	580,115	39,812

- ② 教育研究経費支出は、教育研究活動などに必要な消耗品費、旅費交通費、光熱水費、委託報酬料、賃借料、会費、奨学費などの支出である。

2019年度は、各部局の責任者へのヒアリングを実施し、財務状況の共有および必要性を聞き取りのうえ、予算化を行った。ただし、奨学費については、国際地域学部の入学定員充足に伴い、留学生が増加したことにより39,520千円増額となる。

よって、2018年度第2回補正予算より42,593千円の増額となる見込みである。

◇教育研究経費支出 (単位：千円) <内、奨学費>

所 属	第2回補正	当初予算	差 異	第2回補正	当初予算	比率 ※
国際人間科学部	171,425	153,565	△ 17,860	92,106	72,441	47%
国際地域学部	0	52,512	52,512	0	52,512	100%
こども教育学部	62,122	74,869	12,747	6,976	15,025	20%
短期大学部	91,287	86,481	△ 4,806	9,618	8,242	10%
合 計	324,834	367,427	42,593	108,700	148,220	40%

※比率：教育研究経費に占める奨学費の割合

- ③ 管理経費支出は、法人業務および管理運営、募集活動に必要な委託報酬料、広報費、印刷製本費、などの支出である。

管理経費は、教育研究経費と同様に、各部局の責任者へのヒアリングを実施し、予算化を行った。よって、2018年度第2回補正予算より△318千円の減額となる見込みである。

◇管理経費支出 (単位：千円)

所 属	第2回補正	当初予算	第2回との差異
国際人間科学部	32,938	35,835	2,897
国際地域学部	0	0	0
こども教育学部	9,192	9,140	△ 52
短期大学部	21,636	19,519	△ 2,117
法人部門	15,851	14,805	△ 1,046
合 計	79,617	79,299	△ 318

【教育活動外支出】

【特別収入】

- ⑤ 資産処分差額が主な内容である。

よって、事業活動に必要と見込まれる人件費、教育・管理経費等消費的な諸経費の総額である事業活動支出の合計は10億29,248千円となり、2018年度第2回補正予算より、82,050千円の増額となる見込みである。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は△99,744千円となり、基本金組入額△32,551千円を加算した△1億32,295千円が当年度収支差額となる見込みである。

(2) 資金収支予算書

(単位：千円)

	科 目	30補正②(㊦)	31当初(㊤)	差異(㊤-㊦)
収入	学生生徒納付金収入	609,432	708,617	99,185
	手数料収入	14,943	15,943	1,000
	寄付金収入	5,160	2,707	△ 2,453
	補助金収入	169,483	161,480	△ 8,003
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	7,457	7,900	443
	受取利息・配当金収入	603	603	0
	雑収入	39,871	32,054	△ 7,817
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	243,600	243,600	0
	その他の収入	50,180	44,326	△ 5,854
	資金収入調整勘定	△ 251,609	△ 201,000	50,609
	(当年度資金収入 合計)	(889,120)	(1,016,230)	(127,110)
	前年度繰越支払資金	386,792	245,835	△ 140,957
	資金収入の部 合計	1,275,912	1,262,065	△ 13,847
	科 目	30補正②(㊦)	31当初(㊤)	差異(㊤-㊦)
支出	人件費支出	541,521	576,590	35,069
	教育研究経費支出	232,534	275,127	42,593
	管理経費支出	70,017	69,699	△ 318
	借入金等利息支出	444	407	△ 37
	借入金等返済支出	2,286	2,286	0
	施設関係支出	39,537	28,000	△ 11,537
	設備関係支出	2,748	2,265	△ 483
	資産運用支出	2,500	0	△ 2,500
	その他の支出	54,442	37,357	△ 17,085
	予備費	2,000	2,000	0
	資金支出調整勘定	△ 44,815	△ 46,315	△ 1,500
	(当年度資金支出 合計)	(903,214)	(947,416)	(44,202)
	翌年度繰越支払資金	372,698	314,649	△ 58,049
	資金支出の部 合計	1,275,912	1,262,065	△ 13,847

【施設関係支出】
・ C棟空調改修工事
28,000千円

【設備関係支出】
・ 骨格標本 300千円
・ 図書 1,965千円

<主な科目の概要>

事業活動収支予算書における収支科目と内容的に相違のない科目については、省略とする。

■資金収入の部

- ① 前受金収入の主な内容として、次年度分の納付金等が前年度中に納付された場合の学生生徒等納付金収入である。
- ② その他の収入の主な内容は、前年度の未収入金（前年度退職者に対する退職財団からの交付金など）、引当特定資産取崩収入である。
- ③ 資金収入調整勘定の主な内容は、今年度末に未収となる見込みの期末未収入金、前年度に資金は受け入れたが、翌年度の収入となる前期末前受金である。

よって、資金収入の合計は12億62,065千円となり、2018年度第2回補正予算より、△13,847千円の減額となる見込みである。

■資金支出の部

- ① 事業活動支出の教育研究経費および管理経費には、「資金支出」で計上された科目のほか、減価償却額が含まれている。
事業活動支出の教育研究経費に92,300千円、管理経費に9,600千円の減価償却額が含まれており、資金支出は減価償却額を除いた金額となる。
- ② 借入金等利息支出および借入金等返済支出は、どちらも短期大学部となり、短期大学部移転前敷地内正門整備工事の借入金である。
- ③ 施設関係支出は、土地、建物、構築物などの支出である。
2019年度は、以下の施設等の設置を予定している。
 - ・建物支出 C棟3階空調取替工事(予定) 28,000千円
- ④ 設備関係支出は、備品、図書、車両などの支出である。
2019年度は、以下の設備等の購入を予定している。
 - ・教育研究用機器備品支出 骨格標本 300千円
 - ・図書支出 1,965千円(国際人間科学部486千円、こども教育学部1,211千円、短期大学部268千円)
- ⑤ 資産運用支出の主な内容は、有価証券購入支出である。
- ⑥ その他の支出の主な内容は、前期末未払金支払支出、前払金支払支出などである。
- ⑦ 資金支出調整勘定の主な内容は、今年度末に未払いとなる見込みの期末未払金、翌年度に実施するが、当年度に支払いをする前期末前払金である。
期末未払金には、資産となる物で、リースの対象とする場合に同額を計上する。

よって、資金支出の合計は12億62,065千円となり、2018年度第2回予算より、△13,847千円の減額となる見込みである。

その結果、翌年度に繰り越すことになる翌年度繰越支払資金は3億14,649千円となり、2018年度第2回補正予算より、△58,049千円の減額となる見込みである。

以上



学校法人享栄学園
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
事務局財務課

発行日 : 平成31年 3 月 26 日

住 所 : 〒510-0298

三重県鈴鹿市郡山町663-222

T E L : 059-372-3949

F A X : 059-372-3919

e-mail : keiri@m.suzuka-iu.ac.jp



学校法人 享栄学園

〒510-0298 三重県鈴鹿市郡山町663-222
TEL : 059-372-3949 / FAX : 059-372-3919
<http://www.kyoeigakuen.net>

享 栄 学 園 グ ル ー プ

学校法人享栄学園

- 鈴鹿大学 〒510-0298 三重県鈴鹿市郡山町663-222
- 鈴鹿大学短期大学部 〒510-0298 三重県鈴鹿市郡山町663-222

学校法人愛知享栄学園

- 享栄高等学校 〒467-8626 愛知県名古屋市瑞穂区汐時町1-26
- 栄徳高等学校 〒480-1103 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-32
- 享栄幼稚園 〒467-0017 愛知県名古屋市瑞穂区東栄町2-4

学校法人鈴鹿享栄学園

- 鈴鹿高等学校 〒513-0831 三重県鈴鹿市庄野町1260
- 鈴鹿中学校 〒513-0831 三重県鈴鹿市庄野町1230